

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日

府縣郡市長 氏

名印

第一號書式ノ三 (用紙美濃白紙)

見習醫官(見習藥劑官)(衛生部依託學生、同依託生徒)(軍醫學校生徒)(見習獸醫官)(獸醫部依託學生、同依託生徒)願

某儀

見習醫官(見習藥劑官)(衛生部依託學生、同依託生徒)(軍醫學校生徒)(見習獸醫官)(獸醫部依託學生、同依託生徒)志願ニ付御許可被成下度御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕候仍テ戶籍ノ謄本履歷書何々免狀相添ヘ身元保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業

戶主ニアラサ
レハ誰子弟

氏

名印

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

年 月 日 生
何年何月當何年何月

身元保證人
府縣族籍職業
府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)

年月日

同

氏 名印
氏 名印

何師團軍醫部長氏名殿

(衛生部依託學生、同依託生徒志願者ニ在テハ陸軍省醫務局長、軍醫學校生徒志願者ニ在テハ該學校長獸醫部依託學生、同依託生徒志願者ニ在テハ陸軍省軍務局長宛トス)

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日

府縣郡市長 氏

名印

陸軍部内ノ志願者ニ在テハ本書式ニ準シ調製スヘシ

第一號書式ノ四 (用紙美濃白紙)

各兵科下士候補生(蹄鐵工長候補生)(衛生部下士候補生)願

某儀

陸軍出身志願ニ付何々候補生ニ御採用被成下度入隊ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕候仍テ戶籍ノ謄本履歷書相添ヘ身元保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業

戶主ニアラサ
レハ誰子弟

陸軍召募規則

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

氏 名 印

年 月 日 生
何年何月當何年何月

身元保證人

府縣族籍職業

府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)

氏 名 印

同

氏 名 印

何聯隊區司令官氏名殿

追テ左ノ通冀望致候也

第一(步兵) 第二(騎兵) 第三(野戰砲兵) 第四(要塞砲兵)

第五(工兵) 第六(鐵道隊) 第七(輜重兵)

前書ノ趣調査候處相違無之候也

年 月 日

府縣郡市町村長 氏 名 印

近衛師團若クハ第七師團ノ下士候補生蹄鐵工長候補生ヲ志願スル者ニ在テハ其ノ師團名モ記載スヘシ

陸軍部内ノ志願者ニ任テハ本書式ニ準シ調製シ且再服役ヲ志願スル旨ヲ記入スヘシ

第一號書式ノ五 (用紙美濃白紙)

砲兵工長候補生(縫、靴工長候補生)願

某 儀

陸軍出身志願ニ付何々候補生ニ御採用被成下度入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ
陸軍ニ從事可仕候仍テ身元保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業

戶主 戶主ニアラサ
レハ誰子弟

氏 名 印

年 月 日 生
何年何月當何年何月

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

身元保證人

府縣族籍職業

府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)

氏 名 印

氏 名 印

同

何聯隊區司令官氏名殿

前書ノ趣キ調査候處相違無之候也

年 月 日

陸軍召募規則

年月日

府縣郡市町村長 氏

名印

第一號書式ノ六 (用紙美濃白紙)

軍樂學校生徒願

某儀

陸軍出身志願ニ付軍樂學校生徒ニ御採用被成下度入校ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓
テ陸軍ニ從事可仕候仍テ戸籍ノ謄本、履歷書相添ヘ身元保證人連署此段奉願候也

府縣族籍職業

府主 戸主ニアラサ
レハ誰子弟

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

氏

名印

何年十二月當何年月日生

身元保證人

府縣族籍職業

府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)

氏

名印

同

氏

名印

陸軍戸山學校長氏名殿

年月日

前書之趣調査候處相違無之候也

年月日

府縣郡市町村長 氏

名印

第二號書式 (用紙美濃白紙)

履歷書

一何年月日何學校へ入學何年月日同校卒業

一何年月日何學校何年學級ヨリ何學校何年學級ニ入學何年月日同校卒業

一何年月日何所ニ於テ何々研究

一何年月日何ニ從事ス

一何年月日何ニ依リ賞(罰)等

(右ノ外履歷ニ關スル事項ハ悉ク記載スヘシ)

右之通相違無之候也

年月日

本人 氏
身元保證人 氏
同 氏

名印
名印
名印

第三號書式 (用紙美濃紙)

府縣族籍何某身元明細書

陸軍召募規則

品	身 分				所 得 金	財 產	犯 罪 處 刑 ノ 有 無
	本 人	父	母	兄 弟			
任官、就職、就役、就業等年月日ヲ分チ其經歷ヲ明記ス ヘシ	實父(養父、繼父アル者ハ各別ニ)ノ任官(就職、就役、就業 等商工業ハ營業ノ種類ヲ區別シ死者ハ戰死、病死等年月 ヲ分チ其經歷ヲ明記スヘシ)	實母(養母、繼母アル者ハ各別ニ)ノ生家父母ノ族籍氏名 其職業ヲ明記スヘシ	本人又ハ父戸主ニアラサルトキハ父ノ例ニ準シ戸主ノ身 分ヲ明記スヘシ	各別ニ其身分ヲ概記スヘシ	何々利子 何々益金	戸主某ノ俸給 父某ノ手當金 何々ノ收得 何々ノ益金	何々圓 何々圓 何々圓 何々圓 何々圓 何々圓
一家ニ屬スル合計	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓
一家ニ屬スル見積價格合 計	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓	何々圓

行 平 素 ノ 行 爲 右ニ全シ

右之通調査證明候也
年 月 日

府縣郡市長 氏 名 印

郡市長本書證明ニ必要ノ事項ハ裁判所、警察署等ニ照會シ尙寄留者ノ爲ニハ本籍郡
市町村長ニ照會スヘシ
他家ノ補助ニ依リ修學スル等ノ者ニ在テハ本表相當ノ區畫ニ親族何某ノ補助ヲ受ケ
修學ス等其事實ヲ詳記スヘシ
第四號書式 (用紙美濃紙)

保 證 書

府縣族籍

戸主ニアラサ
レハ誰子弟 氏

名

年月日生

右者何年何月當校第何學年ニ入學シ何年何月全科卒業(現今第五學年ニ在學)ノ者ニ
シテ平素品行方正性質何々卒業試験ノ成績(第五學年ニ進級試験ノ成績)別紙成績表
ノ通ニ付陸軍補充條例第七條第二ニ據リ此段保證致候也
年 月 日 何師團長氏名殿 何中學校長 氏 名 印

陸軍召集規則

本證書ハ親展封書ト爲スヘキモノトス
第五號書式 (用紙美濃紙)

何某卒業試験、(進級試験)成績表

科目	何	目	合計	平均	列序
85	、				
90	、				
76	、				
80	、				
84	、				
95	、				
75	、				
85	、				
82	、				
88	、				
840					
84					
100					
6					
48					

本例ニ於テハ試験科目ヲ十箇トシ其定點ヲ百點トシテ製表ノ例ヲ示スト雖モ其區畫ハ科目數ニ應シテ之ヲ設ケ其ノ定點ハ各學校ノ規定ニ依ルヘキモノトス
成績ヲ現ハスニ評點ヲ以テセス評語ヲ以テスル學校ニ在テハ本表ノ點數ヲ評語ヲ以テ現ハスコトヲ得

本例中各科目ノ平均點ニ於テ84ト記シタルハ平均得點八十四點ニシテ其定點百點タルヲ表シ列序ニ於テ648ト記シタルハ卒業若クハ第五學年ニ進級セシ人員四十八人ニ對スル第六番ノ列次タルコトヲ表スモノトス

第六號書式 (用紙美濃紙)

入隊承認書

右者品行方正志操確實ニシテ身元正シク將來當將校團ノ將校トシテ加列セシメ適當ノ者ト認ム依テ當隊士官候補生トシテ入隊スルヲ承認候也

府縣族籍 戶主 戶主ニアラサレハ誰子弟 氏 名

何師團長氏名殿 何隊長 氏 名 印

年 月 日

本承認書ハ親展ト爲スヘキモノトス

第七號書式 (用紙美濃紙)

明治何年何々志願者連名簿	某検査場	將校生徒試験臨時委員	官氏名印
外國語學 格 身 體 長 等 差 事 故 試驗 濟 事 科 試 驗 故 番 號 族 籍 隊 號 官 姓 年 月 名	英 合 五 尺 一 寸 三 甲	新 潟 士 中 幼 步 曹 何	何 年 何 月 某
英 合 五 尺 二 寸 甲	東 京 平 步 一 步 軍 何	何 年 何 月 某	
獨 尺 寸	同	同	何 年 何 月 某
佛 合 五 尺 三 寸 乙	同 日 午 前 (後) 無 國 不 參	同	同

陸軍召募規則

英	合	五尺四寸五甲	○同日午前(後)不正ノ所爲ニ付停止	英城平同	兵一志同	同
英	不	五尺一寸丙		山口士同	同	同
佛	合	五尺二寸三乙	○何日午前(後)届濟不參	長野平同	同	同
英	合	五尺二寸乙	○何日午前(後)一科答解シ能ハサルニ付停止ス	静岡士	同	同
獨	尺	寸	無届不參	山形士	同	同
合計			○九名			

備考
 一 身体合格者
 二 身体不合格者
 三 身体検査ヲ受ケサル者
 四 學科全科目或ハ若干科目ノ試験ヲ受ケサル者
 五 一科目答解シ能ハサル停止者
 六 不正所爲ノ停止者
 七 受験全濟者

第八號書式 (用紙美濃白紙)
 表中○印ヲ付スル事項ハ各主任ノ検査官ニ於テ記入スルモノトス

今般地方幼年學校生徒被命候ニ付テハ入校中ノ費用ハ御規定ノ通可相納萬一本入納兼候節ハ身元保證人ニ於テ可相納候仍テ身元保證人連署證書如斯候也
 某儀

納金證書 (收入印紙貼用)

何地方幼年學校長氏名殿
 前書之通相違無之候也
 第九號書式 (用紙美濃紙)

年月日

府縣郡市長 氏 名印

府縣族籍職業
 府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)
 氏 名印

同 氏 名印

身元保證人
 府縣族籍職業
 府(縣)郡(市)町(村)番地住(寄留)
 氏 名印

本人 氏 名印

下士候補生召募結果表

區分	所要人員	志願者總員	採用人員	不採用人員
步、何聯隊				
兵、計				
騎、兵				
砲、野戰				
兵、要塞				

陸軍召募規則

考備合	衛	路	輕工
	生	鐵工	重兵
計部	長	兵	兵

一 近衛師團ニ在テハ工兵ノ次ニ鐵道隊ノ區畫ヲ設クヘシ
 一 近衛師團ノ要員配當ヲ受ケタル師團ニ在テハ其ノ人員ヲ所要人員ノ區畫ニ朱字ニテ別記スヘシ

追 則

○陸軍省告示第十五號 明治三十一年十月八日

- 一 地方幼年學校卒業ノ者ハ其年九月一日中央幼年學校へ入學セシム
- 二 中央幼年學校ニ入學ヲ命セラレタルモノヲ特待生ハ更ニ身元保證人二名ヲ定メ入學期日前ニ左ノ書式ニ依リ納金證書ヲ學校長ニ差出スヘシ

納金證書 (用紙美濃白紙 收入印紙貼用)

今般中央幼年學校へ入學被命候ニ付テハ入校中ノ費用ハ御規定ノ通り可相納萬一本 某儀

人納メ兼候節ハ身元保證人ニ於テ可相納候仍テ身元保證人連署證書如斯候也
 年 月 日 本人 氏 名 印

身元保證人
 府(縣)族籍職業
 府(縣)郡(市)町(村)番地
 同 氏 名 印

陸軍中央幼年學校長氏名殿
 前書ノ通り相違無之候也
 府(縣)郡(市)長 氏 名 印

- 三 中央幼學校生徒ノ納ムヘキ金額ハ左ノ如シ
 半特待生 初度被服料 金八圓
 毎月納金 金三圓五十錢
- 四 自費生 初度被服料 金二十四圓
 毎月納金 金七圓
- 五 前項ノ納金ハ實費ヲ精算シ不足スルトキハ之レヲ追納セシメ殘餘ハ之ヲ還付ス
- 五 初度被服料及入營當月ノ納金ハ入學ノ前月二十八日迄ニ爾後毎月ノ納金ハ其前月二十八日迄ニ身元保證人ヨリ中央幼年學校ニ納付スヘシ但シ便宜ニ依リ若干月分ヲ前納スルコトヲ得

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍服役條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十九年六月三日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

勅令第二百三十八號

陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

第二款 豫備役及後備役

第二章 准士官ノ服役

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第二款 現役

第三款 豫備役及後備役

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第二款 現役

第三款 豫備役及後備役

第五章 補充兵ノ服役

第六章 雜則

附則

陸軍服役條例

第一章 將校ノ服役

第一款 現役

第一條 現役將校ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役定限年齢ニ滿ツル迄服役セシム但別ニ規定アルモノハ此限ニアラス

第二條 將校ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

少將	六十歲
中將	六十五歲

憲兵大中佐 五十七歲

步騎砲工輜重兵大中 五十四歲

佐憲兵少佐 五十一歲

步騎砲工輜重兵少佐 四十八歲

憲兵大尉 四十五歲

步騎砲工輜重兵大尉

憲兵中少尉

步騎砲工輜重兵中少尉

第三條 現役定限年齢ニ滿ツルモ他人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル者又ハ補充土必要アル者ハ留任ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 現役定限年齢ニ滿ツルモ戰時若クハ事變ニ際スルトキ又ハ航海中或ハ外國駐劄中ハ現役期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第五條 現役定限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ將官ハ上諭ニ依リ上長官士官ハ陸軍大臣旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

第六條 現役將校傷痍若クハ疾病ニ由リ職務若クハ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ順序ヲ經テ休職又ハ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

陸軍服役條例

第七條 休職停職ノ將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス他ノ師管ニ寄留スル者ハ寄留地所管師團長ノ監督ヲ受ク

第八條 休職停職ヲ命セラレタル者歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但歸郷旅行一箇月以上ヲ要スルトキハ到着日ヲ豫定シ出發前本籍所管師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スル者ハ本籍市町村東京市京都市大阪市ニ在テハ區長以下同シニ於テ軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ本籍所管ノ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ滞在若クハ寄留ノ當日ヨリ十四日以内ニ其ノ地所管ノ師團長ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第九條 休職停職ノ將校十四日以上旅行又ハ寄留セント欲スルトキハ本籍市町村ニ於テ軍衙ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニ届出ヘシ其本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ旅行又ハ寄留セント欲スル者ハ其期限ヲ豫定シ陸軍大臣ニ願出ツヘシ前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者出發セントスルトキ及歸朝シタルトキ第一項ニ準シ届出ツヘシ

第十條 休職停職ノ將校寄留地師管ノ兵籍ニ轉セント欲スル者ハ師團長ニ願出テ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ寄留地所管ノ師團長ニ届出ヘシ

寄留地師管ノ兵籍ニ轉シタル者ニ付テハ本條例ノ規定ニ於テ寄留地ヲ本籍地ト同視ス

第十一條 休職停職ノ將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ師團長ニ届出ヘシ但自己ノ身上ニ係ル異動ハ寄留地所管ノ師團長ニモ届出ヘシ

第十二條 傷痍若ハ疾病ニ由リ休職ト爲リタル者全癒シタルトキハ陸軍醫官若ハ地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 休職停職ノ將校ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出中家事ヲ擔當スル者

ツヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若ハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ師管ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ツヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長東京市京都市大阪市ニヨリ在テハ區長以下同シ警備隊區ニ在テハ警備隊司令官又ハ警備隊區司令官以下同シニ通知スヘシ

第十一條ノ四 休職停職ノ將校重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主 本人戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ツヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第十二條 休職停職ノ將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校又ハ其ノ戸主若ハ家事擔當者ヨリ師團長ニ差出ス願届書ハ市町村長及聯隊區司令官ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願届書ハ市町村長、聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ但シ佐官以下ノ將校ヨリ第十一條ノ二ニ依リ差出ス願届書ハ現住地所管ノ聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ

第十二條ノ二 第八條第一項及第二項第九條第一項及第四項第十條第十一條第十一條

ノ三第十一條ノ四ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第十二條ノ三 第八條及第九條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ軍衙ノ命令ヲ通報セス若ハ其ノ通報ヲ遲緩シタルトキハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十三條 本款ハ現役將校相當官ニ適用ス

第十四條 將校相當官ノ現役年限年齢ハ左ノ如シ

監督總監 軍醫總監 六十五歲

監督監 軍醫監 六十歲

一二等監督 一二等軍醫正 五十七歲

三等監督 獸醫監 五十四歲

藥劑監 一等軍醫 五十一歲

監督補 一等藥劑官 藥長

一等軍吏 樂長

二三等軍醫 二三等藥劑官 四十八歲

二三等獸醫 二三等軍吏

第二款 豫備役及後備役

第十五條 豫備役後備役將校ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ師團長ノ管轄ニ屬ス

第十六條 豫備役將校ノ服役期限ハ現役定限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トス

第十七條 後備役將校ノ服役期限ハ豫備役ヨリ轉入シタル者ハ轉入後五箇年現役定限

年齢ニ滿チ後備役ニ轉入シタル者ハ現役ヲ退キタル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日

迄トシ後備役准士官下士ヨリ士官ニ進級シタル者ハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第

六年目ノ三月三十一日迄トス

第十八條 豫備役後備役將校ノ服役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若

クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十九條 第三條第四條第十八條ニ依リ留任ヲ命シ又ハ服役ヲ延期シタル者ト雖服役

年期ノ計算ハ留任セサル者又ハ服役ヲ延期セサル者ニ同シ

第二十條 豫備役後備役將校服役滿期ニ至リタルトキハ辭令ヲ用キスシテ豫備役ハ後

備役ニ後備役ハ退役ニ入ルモノトス

第二十一條 豫備役後備役將校ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定

メ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十二條 豫備役後備役將校傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルト

キハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ退役ヲ陸軍大臣ニ願出ヘシ

第二十三條 豫備役後備役將校ハ現役將校同等官ノ次席トス

第二十四條 豫備役後備役將校ハ召集ニ應スルトキ及朝拜參賀公私ノ儀式祭典其ノ他

廉アル宴會等ノ場所ニ列スルトキハ陸軍ノ制服ヲ著スルモノトス但文官ニ任セラレ

タル者ハ召集ノ場合ヲ除クノ外交官ノ制服ヲ著スルモ妨ケナシ

第二十五條 豫備役後備役將校ハ戰事若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務

演習ノ爲メ召集ス

第二十六條 豫備役後備役將校ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務

ヲ奉スル者ハ外國ニ在ル者及市町村長、助役、收入役ト爲ル者ハ勤務演習ノ爲メ召

集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第二十七條 豫備役後備役將校ニシテ他ノ師管ニ寄留シ該師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サ

ント欲スル者ハ師團長ニ願出テ其ノ許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願者ハ指令書受三日以内ニ豫備役後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及嘗テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ寄留地ノ師團長ニ届出ヘシ

第二十八條 豫備役後備役將校ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願フ者ハ其ノ事實ヲ證明シ師團長ノ許可ヲ請フヘシ

第二十九條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル將校歸郷シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ地ニ一箇月以上滞在若クハ寄留セント欲スルトキ若クハ歸郷旅行日數一箇月以上ヲ要スルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三十條 豫備役後備役將校十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ師團長ニ届出テ歸郷シタルト

キハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ師管ニ係ルトキハ其ノ地ノ師團長ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニヨリ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ師團長ニ届出ヘシ

第三十一條 豫備役後備役將校兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ但他ノ師管ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出スヘシ

第三十二條 豫備役後備役將校ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ

第三十三條 豫備役後備役將校ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但シ他ノ師管ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ師團長ニ届出ヘシ

家族ナキモノニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十四條 豫備役後備役將校重罪輕罪 罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戶主 本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ師團長ニ届出ヘシ 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三十五條 豫備役後備役將官ヨリ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ師團長ヲ經由シ佐官以下ノ將校又ハ其ノ戶主若ハ家事擔當者ヨリ師團長ニ差出ス願書ハ市町村長及聯隊區司令官ヲ經由シ陸軍大臣ニ差出ス願書ハ市町村長、聯隊區司令官及師團長ヲ經由スヘシ

第三十六條 第二十七條第二十九條第一項及第三項第三十條第二項及第三項第三十一條乃至第三十四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第三十七條 第二十九條第三條ヲ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩タル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十八條 本款ハ豫備役後備役ノ將校相當官ニ適用ス

第二章 准士官ノ服役

第三十九條 本章ニ於テ准士官ト稱スルハ步騎砲工輜重兵特務曹長、砲工兵上等工長及樂長補ヲ謂フ

第四十條 (削除)

第四十一條 准士官ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

- 砲工兵上等工長 五十一歳
- 樂長補 四十八歳
- 步騎砲工輜重兵特務曹長 三十四歳

第四十二條 現役定限年齢ニ滿タサルモ服役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサル者ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトヲ得
第四十三條 特務曹長ハ現役定限年齢ニ滿タサルモ正當ノ事故アルトキハ陸軍大臣本人ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得
第四十四條 特務曹長ハ現役定限年齢ニ滿チ現役ヲ退キタルトキハ豫備役ニ豫備役終

ルノ後ハ後備役ニ服セシム

第四十五條 豫備役後備役特務曹長ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ豫備役滿期後五箇年トス

第四十六條 豫備役後備役砲工兵上等工長及豫備役後備役樂長補ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トス

第四十七條 准士官ノ現役豫備役後備役服役ニ關スル諸般ノ事項ニ就テハ第一章第二條第五條第十三條第十四條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ規定ヲ適用ス但第二十一條ノ願書ハ師團長ニ差出スモノトス

第四十八條 豫備役後備役ノ下士ヨリ特務曹長ニ進級シタル者ノ服役年期ハ豫備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第六年目ノ三月三十一日迄トシ後備役ニ在テハ現役定限年齢ニ滿ツル年ヨリ第十一年目ノ三月三十一日迄トス

第三章 下士ノ服役

第一款 通則

第四十九條 下士ノ服役ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備役及後備役トス其ノ服役ヲ終リタルトキハ第二國民兵役ニ服セシム

第五十條 各兵役期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五十一條 現役ヲ離ルルトキ服役十二箇年四箇月ヲ過キ豫備役後備役ニ服セサル者及事故ニ由リ常備後備ノ役若クハ兵役ヲ免スル者ハ同時ニ其ノ官ヲ免シ後備役滿期ノ者ハ別ニ辭令ヲ用キスシテ其ノ官消滅スルモノトス

第二款 現役

第五十二條 現役下士ハ所屬部隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム
第五十三條 隊附現役下士ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス憲兵科下士、計手及軍樂部下士ハ總テ之ヲ營外ニ居住セシメ諸工長及衛生部下士ハ人員ニ限り營外ニ居住セシム

警備隊附下士ニシテ其ノ警備隊區在籍ノ者ハ外泊ヲ許スコトアルヘシ

第五十四條 現役下士ノ服役期限ハ左ノ如シ

一 各兵科及衛生部下士候補生兵卒ヲ除クヨリ下士ニ任セラレタル者ハ任官ノ月ヨリ四箇年

二 憲兵科下士ハ前服役年月ヲ通算シ六箇年

三 砲兵工長、蹄鐵工長、縫工長、靴工長候補生兵卒ヲ除クヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ任官ノ月ヨリ四箇年

四 軍樂部下士ハ樂手補ヲ命セラレタル月ヨリ五箇年

五 歩騎砲工輻重兵科上等兵及看護手ヨリ下士ニ任セラレタル者ハ入隊ノ月ヨリ三箇年

前項第一號乃至第四號ニ當ル者ヲ長期下士トシ第五號ニ當ル者ヲ短期下士トス

第五十五條 下士ハ現役満期ノ後現役定限年齢ニ滿ツル迄ハ數次再服役ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 下士ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

諸工長 四十八歲

憲兵科下士 衛生部下士 四十五歲

軍吏部下士縫靴工長 軍樂部下士 四十五歲

步騎砲工輻重兵科下士諸工長 四十歲

第五十七條 再服役年期ハ一箇年以上トス但第五十四條第五ニ當ル者ニ在テハ初度ニ

限リ三箇年ヲ以テ一期トス

前項但書ニ當ル者ハ之ヲ長期下士トス

第五十八條 再服役ハ中隊ニ在テハ其ノ所屬中隊長憲兵分隊ニ在テハ分隊長、軍ニ出

願シ該中隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

諸本部諸官廨ニ在テハ直屬長官ニ出願スヘシ但直屬長官聯隊長ト同等ノ權ナキトキ

ハ聯隊長同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請フヘシ

衛生部軍吏部下士ノ再服役ハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ當該監督部

長若クハ軍醫部長ニ豫メ協議スヘシ

再服役ヲ許可シタルトキハ誓約書ヲ中隊長若クハ直屬長官ニ出サシム

第五十九條 再服役許可ノ後轉隊若クハ轉職シタルトキハ其ノ誓約書ヲ新所屬ノ中隊

長者クハ直屬長官ニ移スヘシ

第六十條 現役中本人ヲ要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免スルコトヲ得

第六十一條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス
第六十二條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第六十三條 憲兵下士ニシテ素行修マラサル者ハ特ニ現役ヲ免ス
第六十四條 憲兵下士其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ハヌ官ヲ免スルコトヲ得

第六十五條 現役ヲ離ルルトキ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七年四箇月ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二年四箇月ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム
第六十六條 第六十二條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免シタル者ハ第一國民兵ニ服セシム

下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若クハ第六十四條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ一等卒ト爲シ憲兵科及各

部ニ在テハ前兵科者ハ前兵科ナキ者ハ歩兵科ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ

滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ前條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十三箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第六十七條 現役下士ニシテ其ノ服役七箇年四箇月若クハ十二箇年四箇月ノ後尙豫備役若クハ後備役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其ノ年數ヲ定メ現役滿期ノ際聯隊長若クハ連少ト同等以上ノ權アル長官ニ願出ヘシ但豫備役ハ現役定年限年齢ニ滿ツル年ノ三月三十一日以後備役ハ滿五十歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

聯隊長若クハ連少ト同等以上ノ權アル長官前項ノ服役ヲ許可シタルトキハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第六十八條 第六十條乃至第六十四條ニ當ル者アルトキハ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役ハ常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但師團長及之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自ラ之ヲ處分ス

第六十九條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其ノ刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役服役年數ニ算入セス

陸軍服役條例

第三款 豫備役及後備役

第七十條 豫備役後備役下士ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第七十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七箇年四箇月トス

第七十二條 後備役下士ノ服役期限ハ豫備役滿期ノ後五箇年トス但七箇年四箇月以上

現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第七十三條 豫備役後備役下士服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ辭令ヲ用キスシテ豫備

役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第七十四條 豫備役後備役下士滿期後引續キ服役セント欲スルトキハ年數ヲ定メ市町

村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ但豫備役ハ現役定年限年齡ニ滿ツル年ノ三月三十

一日後備役ニ滿五十歳トナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

第七十五條 豫備役後備役下士傷疾若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第

一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷疾若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難ト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證

書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ニ師團長ノ認可ヲ請ヒ豫備役後備役又ハ兵

役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官第六十八條ノ例

ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第七十五條ノ二 豫備役後備役憲兵下士召集申其ノ職務ヲ辱シムルニ依リ懲罰ノ處分

ヲ受ケ其ノ情重キモノハ陸軍懲罰令ノ規定ニ拘ラス官ヲ免スルコトヲ得

第七十五條ノ三 豫備役後備役下士ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ官ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰

令若クハ前條ニ依リ官ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科ノ一等

卒トシテ憲兵科及各部ニ在テハ前兵科者ハ歩兵科者ハ歩兵科ノ一等卒ト爲ス

第七十六條 豫備役後備役下士ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年

二度簡閱點呼ヲ爲シ又勤務演習ノ爲メ召集ス

第七十七條 豫備役後備役下士ニシテ文官ニ任セラレ餘人ヲ以テ代スヘカラサル職務

ヲ奉スル者ハ外國ニ在ル者及市町村長ハ助役、收入役トナル者ハ勤務演習簡閱點呼

ノ爲メ召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲ル者其ノ開會中亦同シ

第七十八條 豫備役後備役下士ハ願ニ依リ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得
一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲナスコト
ヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ヲ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ
差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後、寄留後出願ノ者三日以内ニ豫備役
後備役編入年、現官ニ任セラレタル年月及嘗テ勤務演習ヲ爲シタル年月ヲ記シ其ノ
由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第七十九條 豫備役後備役下士ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習召集ノ猶豫若ク
ハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯
隊區司令官ニ差出スヘシ

第八十條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル下士ハ十四日以内ニ從前ノ在職地ヲ出
發シ一日行程十二里詰ヨリ鈔カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ
經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

從前ノ在職地若クハ其ノ他ノ地ニ二十五日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項
ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ル
市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ
同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ
亦同シ

第八十一條 豫備役後備役下士十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村
ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令
官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令
官ニ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ
外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確
知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司
令官ニ届出ヘシ

第八十三條 豫備役後備役下士兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十三條 豫備役後備役下士ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第八十四條 豫備役後備役下士ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中兵籍ヲ轉換シタルトキ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヲ經テ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ兵籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知ス

第八十五條 豫備役後備役下士重罪輕罪^{罰金ヲ}刑ニ處セラルタルトキハ刑名及刑期

ヲ記シ其ノ戶主^{本人戶主ナレハ家族}中家事ヲ擔當スル者ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官

ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知ス

ヘシ

第八十六條 豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其人召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算入セス

第八十七條 第七十八條第三項但書第八十條第一項及第二項第八十一條第一項及第三項第八十二條乃至第八十五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十八條 第八十條第八十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第四章 兵卒ノ服役

第一款 通則

第八十九條 本章中ノ兵卒又ハ兵ニハ雜卒及職工ヲ包含ス

陸軍服役條例

第九十條 憲兵令第七條第十六條第二十四條第二十九條第一項但書及第三項ノ規定ハ
憲兵上等兵、樂手補及下士ニシテ官ヲ失ヒ若クハ官ヲ免セラレ一等卒ト爲リタル者
竝ニ第百六十條ノ兵卒ニ適用ス

第九十一條 憲兵上等兵、樂手補ノ服役期限ハ十二箇年四箇月トシ之ヲ分テ現役豫備
役及後備役トス其ノ服役終リタルトキハ第一國民兵役ニ服セシム

第九十二條 兵卒ハ年齡滿四十歳ヲ以テ服役ノ終期トス但第百三十二條ニ依リ服役ス
ル者ハ滿四十五歳下ナル年ノ三月三十一日ヲ以テ終期トス

第二款 現役

第九十三條 現役兵ハ入隊ノ日ヨリ其ノ隊ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシ
ム

第九十四條 現役兵ハ營内ニ居住セシムルヲ例トス

憲兵上等兵、樂手補ハ營外ニ居住セシムルハ、
警備隊看護手、縫工、靴工中品行方正勤務勉勵且技藝熟達ノ者ハ外泊ヲ許スコトア
ルハシ

第九十五條 憲兵上等兵ノ現役期限ハ前服役年月ヲ通算シ六箇年トス

第九十六條 砲兵助卒、砲兵輸卒、輜重輸卒及看護卒ノ現役期限ハ二箇年四箇月トシ

砲兵助卒ハ一箇年間、砲兵輸卒ハ四箇月間、輜重輸卒ハ三箇月間看護卒ハ四箇月間
在營ノ後歸休セシム

戰時若クハ事變ニ際スルトキ其ノ他必要ノ場合ニハ在營期限ヲ伸縮スルコトアルヘ
シ

第九十七條 樂手補ノ現役期限ハ樂手補ヲ命セラレタル月ヨリ五箇年トス

第九十八條 警備隊現役兵ハ一箇年間在營ノ後歸休セシム

第九十九條 警備隊現役兵中上等兵タルノ技能ヲ有スル者及上等兵、看護手ニシテ志
願ノ者ハ尙一箇年間在營セシムルコトヲ得

警備隊上等兵及看護手中下士タルノ技能ヲ有スル者及縫工、靴工ニシテ志願ノ者ハ
現役期限滿ツル迄在營セシムルコトヲ得

第一百條 步騎砲工輜重兵卒看護手及縫工靴工ニシテ下士タルノ技能ヲ有スル者ハ現役
滿期ノ後三箇年ヲ一期トシ再服役ヲ爲スコトヲ得其ノ下士ニ任セラレタル者ハ之ヲ

長期下士トス

憲兵上等兵、樂手補及警備隊縫工、靴工ハ現役滿期ノ後現役定限年齢ニ滿ツル迄數次再服役ヲ爲スコトヲ得其ノ再服役年期ハ一箇年以上トス

前二項ノ再服役ニ關シテハ第五十八條及第五十九條ヲ適用ス

第一百一條 兵卒ノ現役定限年齢ハ左ノ如シ

憲兵上等兵 雜卒 職工 四十歲

步騎砲工輜重兵卒 三十五歲

第一百二條 現役中本人ヲ要スルニアラサレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生スルトキハ其ノ家族ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第一百三條 現役中傷痍若クハ疾病ニ依リ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ現役ヲ免ス

第一百四條 現役中傷痍若クハ疾病ニ由リ常備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ役ヲ免シ永

久服役ニ堪ヘ難キ者ハ其ノ兵役ヲ免ス

第一百四條ノ二 第一百條第一項ニ依リ再服役ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ軍紀ヲ紊リ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ下士タルヲ得ヘカラスト認メタル者ニ付テハ其ノ許可ヲ取消ス

第一百五條 憲兵上等兵現役中左ニ掲クル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス

一 職務ヲ辱シムルニ由リ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ

二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ說諭ヲ受クルモ改悛ノ狀ナキトキ

第一百六條 現役ヲ離ルルトキ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ七年四箇月ニ滿タサル者ハ

豫備役ニ十二年四箇月ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第一百七條 第一百二條第一百三條ニ當ル者軍隊第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第二補

充兵役ニ服セシム其ノ服役年期ハ前役ヲ通シテ一年四箇月トス

第一百四條ニ依リ常備後備ノ役ヲ免セラレタル者ハ第一國民兵役ニ服セシム但シ軍隊

第一期ノ教育ヲ卒ラサル前ニ在テハ第二國民兵役ニ服セシム

第一百八條 上等兵、看護手及樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰

令若クハ第一百五條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科ニ在テハ當該兵科

ノ一等卒ト爲シ憲兵上等兵、看護手及樂手補ニ在テハ前兵科前兵科ナキモノ一等卒

ト爲シ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ三箇年ニ滿タサル者ハ三箇年ニ滿ツル迄現役ニ

服セシメ三箇年ヲ過クル者ハ第一百六條ノ例ニ依リ豫備役又ハ後備役ニ服セシメ十二

箇年四箇月ヲ過クル者ハ第一國民兵役ニ服セシム

第九條 憲兵上等兵、樂手、補ハ近鄰ノ戸主ニ名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス
島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ本人所屬ノ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ移スヘシ

第十條 第一百二條乃至第一百五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役兵役ヲ免シ若クハ再服役ノ許可ヲ取消シ又ハ憲兵上等兵ヲ免ス

第十一條 歸休兵中第三條第四條ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官前項ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ
第十二條 憲兵上等兵、樂手補現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタルトキハ其

ノ刑期中逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第十二條 現役中徵兵令第十五條ニ依リ歸休ヲ命スヘキ者ハ二箇年以上服役シタル者ニ限ル但警備隊兵卒、砲兵助卒ハ八箇月以上在營シタル者ニ限ル

第十三條 歸休ヲ命スヘキ人員ハ陸軍大臣ノ上裁ヲ經テ之ヲ定ム

第十四條 歸休兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第十五條 歸休兵在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十六條 歸休兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度簡閱點呼ヲ爲シ又演習ノ爲メ若クハ臨時兵員ノ補缺ヲ要スルトキ之ヲ召集ス

第十七條 歸休兵ハ官廳ニ奉職スルコトヲ得但奉職ノ故ヲ以テ召集ヲ猶豫若クハ免除スルコトナシ

陸軍服役條例

第百十七條ノ二 歸休兵ハ願ニ依リ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得又止ムヲ得サル事故アルトキハ簡閱點呼ノ免除ヲ願出ツルコトヲ得
 一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ツル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但シ寄留地ニ於テ勤務演習ヲ爲スノ許可及簡閱點呼ヲ受クルノ許可ヲ受ケタル者ハ寄留地到着後 寄留後出願ノ者 三日以内ニ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ツヘシ

第百十八條 歸休兵ハ退營後七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ鈔カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
 退營後衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
 前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ

同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百十九條 歸休兵十四日以上旅行又ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ其ノ由ヲ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
 前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第百二十條 歸休兵ハ外國ニ旅行又ハ寄留スルヲ許サス
 韓國ニ旅行又ハ寄留スル者ニシテ特別ノ事情アリ勤務演習召集ノ猶豫ヲ願ハント欲スル者ハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第百二十一條 歸休兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百二十二條 歸休兵ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戶籍ヲ轉換

シタルトキハ其ノ戸主 本人戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ 但他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ 家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十三條 歸休兵重罪輕罪 罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主 本人戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ 中家事ヲ擔當スル者

家族ナキモノニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第百二十四條 歸休兵演習又ハ臨時兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷痰疾病其ノ他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キトキハ傷痰疾病ノ者ハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書其ノ他ノ事故ハ證明書ヲ添ヘ召集期日迄ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第百二十五條 第百十七條ノ二第三項但書第百十八條第一項及第二項第百十九條第一項第百二十一條乃至第百二十四條ノ届出テヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第百二十六條 第百十八條第百十九條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セヌ若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者及第百二十條第一項ニ違背シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第百二十七條 (削除)

第三款 豫備役及後備役

第百二十八條 豫備役後備役兵卒ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第百二十九條 豫備役兵卒ノ服役期限ハ其服役シタル年月ヲ通算シ七年四箇月トス
第百三十條 前條ニ依リ豫備役ヲ終リタル者ハ五箇年間後備役ニ服セシム
七箇年四箇月以上現役ニ服シ直ニ後備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年四箇月トス

第三百一十一條 豫備役後備役兵卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ハ後備役ニ後備役ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第三百一十二條 豫備役後備役兵卒ニシテ各兵科、衛生部下士適任證書ヲ所持スル者ハ滿期後引續キ服役スルコトヲ得志願ノ者ハ年數ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ願出ヘシ

第三百一十三條 豫備役後備役兵卒傷痍若クハ疾病ニ由リ豫備後備ノ役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷痍若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ豫備役後備役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ノ同等以上ノ權アル長官第一百十條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第三百一十三條ノ二 豫備役後備役憲兵上等兵召集中左ニ掲クル事項ニ當ル者ハ其ノ職ヲ免ス

一 職務ヲ辱シムルニヨリ懲罰ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キトキ

二 素行修マラス屢懲罰ノ處分ヲ受ケ又ハ上官ノ説諭ヲ受クルモ改悛ノ情ナキトキ

第三百一十三條ノ三 豫備役後備役上等兵、看護手及樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレ

職ヲ失ヒ又ハ陸軍懲罰令若ハ前條ニ依リ職ヲ免セラレタル者ハ步騎砲工輜重兵科ニ

在テハ常該兵科ノ一等卒ト爲シ憲兵、看護手及樂手補ニ在テハ前兵科前兵科ナキ者ハ步兵科

二等卒ト爲ス

第三百一十四條 豫備役後備役兵卒ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點

呼入爲メ召集スルコトヲ得

第三百一十五條 豫備役後備役兵卒ハ願ニ依リ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得

一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲スコト

ヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ

差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後寄留後出願ノ者三日以内ニ豫備役

後備役編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百二十六條 豫備役後備役兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演集召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第三百二十七條 現役ヨリ豫備役若クハ後備役ニ入ル兵卒ハ七日以内ニ衛戍地ヲ出發シ一日行程十二里詰ヨリ抄カラサル日數間ニ歸郷シ著後七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

衛戍地若クハ其ノ他ノ地ニ八日以上滞在若クハ寄留セントスルトキハ前項ノ出發期日內ニ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ前項ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ滞在地若クハ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第三百二十八條 豫備役後備役兵卒十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキ者ニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第三百二十九條 豫備役後備役兵卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十條 豫備役後備役兵卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十一條 豫備役後備役兵卒ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中

戸籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戸籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百十二條 豫備役後備役兵卒重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主本人戸主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ中家事ヲ擔當スル者

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百十三條 第四百三十五條第三項但書第四百三十七條第一項及第二項第四百三十八條第一項及第三項第四百三十九條乃至第四百四十二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四百四十四條 第四百三十七條第四百三十八條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 補充兵ノ服役

第四百四十五條 第一補充兵第二補充兵ハ本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬ス

第四百四十六條 補充兵服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ第一補充兵ハ第一國民兵役ニ第二補充兵ハ第二國民兵役ニ入ルモノトス

第四百四十七條 補充兵傷痍若クハ疾病ニ由リ補充兵役ニ堪ヘ難キ者ハ第二國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

在郷中傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘスト思惟スルトキハ陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第一項ニ當ル者アルトキハ聯隊區司令官ハ師團長ノ認可ヲ請ヒ補充兵役又ハ兵役ヲ免ス但シ召集中ニ在テハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官第一百十條ノ例ニ依リ處分シ本籍所管ノ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第四百十八條 第一補充兵ニシテ外國ニ旅行又ハ寄留中ノ者ハ勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ

第四百十九條 第一補充兵ハ願ニ依リ寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ得
一箇年以上他ノ師管ニ寄留スル者ハ願ニ依リ寄留地師管ニ於テ教育召集ニ應シ及勤務演習ヲ爲スコトヲ得

前二項ニ依リ願出ル者ハ其ノ願書ニ本籍市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ寄留地到着後ハ寄留後出願ノ者三日以内ニ第一補充兵編入年ヲ記シ其ノ由ヲ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十條 第一補充兵ニシテ止ムヲ得サル事故アリ勤務演習ノ召集猶豫若クハ簡閱點呼ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

第四百十一條 補充兵十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ本籍市町村ニ於テ召集ノ命アルトキ之ヲ通報スヘキモノニ限ルヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

前項ノ寄留地本籍地外ノ聯隊區ニ係ルトキハ寄留地市町村長ヲ經テ同地聯隊區司令官ニモ届出ヘシ其ノ本籍ニ復歸シ若クハ寄留替ヲ爲サントスルトキ亦同シ

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十二條 補充兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十三條 補充兵ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ竝ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第四百十四條 補充兵ニシテ死亡又ハ所在不明ノ者アルトキ及所在不明中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ所在不明者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ

但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ
家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知ス
ヘシ

第百五十五條 補充兵重罪輕罪罰金ヲノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其
ノ戶主本人戶主ナレハ家族除クヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘ
シ
中家事ヲ擔當スル者

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知ス
ヘシ

第百五十六條 第百四十九條第三項但書第百五十一條第一項及第三項第百五十二條乃
至第百五十五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第百五十七條 第百五十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ
其ノ通報ヲ遲緩シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六章 雜則

第百五十八條 一年志願兵、六週間現役兵及屯田各兵科下士兵卒ノ服役ニ關シテハ別

ニ定ムル所ニ依ル

第百五十九條 一年志願兵ヨリ豫備役ニ轉入シタル士官、准士官及下士兵卒ハ豫備役
後備役服役年期ハ一年志願兵條例ノ規定ニ依ル

第百六十條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ニシテ各兵
科各部ノ下士ニ任セラレ又ハ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタルモノハ其ノ編入年
ノ十二月ヨリ起算シ七箇年四箇月間豫備役ニ豫備役終ルノ後五箇年間後備役ニ服セ
シメ後備役終ルノ後第一國民兵役ニ服セシム

第百六十一條 本條例中特ニ下士兵卒ニシテノ服役期限ヲ定メサルモノハ總テ
徵兵令ノ規定ニ從フモノトス
雜卒職工ヲ包
合ス以下同シ

第百六十二條 豫備役將校、同相當官 一年志願兵ヨリ豫備役將校、ニシテ明治二十三
年勅令第二十四號ニ依リ進級シタル者及豫備役轉入後進級シタル者ノ服役期限ハ前
官ノ現役年限年齢ニ依ル現役將校、同相當官ニシテ服役延期中進級シタル者亦同シ

第百六十三條 豫備役後備役將校、同相當官、准士官、下士、兵卒及補充兵ニシテ文

陸軍服役條例

官ニ任セラレ若クハ公吏トナリ餘人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸其ノ他ノ業ニ
従事シ戰役ニ關シ必要ノ職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ充員召集ヲ猶豫スルコ
トアルヘシ

第六十四條 徵兵令第二十四條及本條例第二十六條第七十七條ノ餘人ヲ以テ代フヘ
カラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ勤務演習及簡閱點呼免除
ノ認可ヲ受ケ將校、同相當官及准士官ニ在テハ本人所管ノ師團長ニ下士以下ニ在テ
ハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ其ノ事故止マタルトキ亦同シ

第六十五條 本條例ニ依リ在郷軍人補充兵又ハ其ノ戸主若ハ家事擔當者ヨリ町村長
ヲ經テ差出ス願届書ハ尙島司、郡長ヲ經由スヘシ
本條例ニ依リ町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スル事項ハ島司、郡長ヲ經由スヘシ
第六十五條ノ二 臺灣ニ在テ本條例中師團長ノ職務ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ
第六十五條ノ三 豫備役後備役將校、同相當官及下士、歸休兵、豫備役後備役兵卒、
第一補充兵ニシテ一箇年以上臺灣ニ寄留スル者ハ願ニ依リ同地ニ於テ勤務演習ヲ爲
スニトヲ得

其ノ願出及届出方ハ第二十七條第七十八條第三項第一百七條ノ二第三項第三百五
條第三項第四百十九條第三項ノ例ニ依ル但シ各條項中師團長及聯隊區司令官ニ届出
ツヘキモノハ臺灣守備混成旅團長ニ届出ツヘシ
前項ノ届出ヲ爲ササル者ニ對シテハ第三十六條第八十七條第二百二十五條第四百十三
條第五百五十六條ノ罰例ヲ適用ス

附 則

第六十六條 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ區戶長
及之ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ北海道ニ在テハ北海道廳支廳長之ヲ行フ
本條例中ノ市町村トアルハ北海道及沖繩縣ノ區ニ該當ス

第六十七條 陸軍豫備後備將校服役條例、陸軍豫備後備下士兵卒服役條例、陸軍現
役下士上等兵再服役條例、陸軍歸休兵條例及明治二十二年勅令第三十七號ハ本條例
施行ノ日ヨリ廢止ス

第六十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス
第六十九條 豫備役後備役下士、歸休兵、豫備役後備役兵卒、第一補充兵ニシテ臺

陸軍服役條例

滿ニ寄留スル者ニハ當分簡閱點呼ヲ行ハス

第七十條 明治三十二年十二月一日前任官シタル現役下士再服役ノ者ヲ除クノ服役期限ハ左ノ如シ

- 一 各兵科各部下士第二以下ニ掲ニシテ其ノ服役シタル年月六箇年ニ滿タサル者ハ六箇年ニ滿ツル年ノ十一月三十日迄トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日迄トス
 - 二 教導團及要塞砲兵射擊學校卒業者ヨリ下士ニ任セラレタル者砲工兵監護及砲臺監守タリシ者ヲ除クハ其ノ入團入校ノ前年十二月ヨリ六箇年トス
 - 三 砲兵工科學校卒業者ヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ任官ノ月ヨリ七箇年
 - 四 經理學校卒業者ヨリ諸工長ニ任セラレタル者ハ入校ノ年ノ十二月ハ入隊ノ年ノ十二月ヨリ六箇年トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日迄トス
 - 五 蹄鐵工下士ハ入隊ノ月ヨリ六箇年
 - 六 軍樂部下士ハ樂生ヲ命セラレタル月ヨリ七年四箇月
- 第七十一條 明治三十二年十一月三十日現在ノ現役砲工兵監護及砲臺監守中三十六

歳以上ニシテ曹長ニ轉官ノ者ハ定限年齢ニ拘ラス同年十二月以後五箇年以内再服役ヲ爲スコトヲ得但シ四十八歳ヲ超ユルヲ得ス

第七十二條 第七十條第七十一條ニ當ル下士及明治三十二年十二月一日前ヨリ

再服役ノ下士ハ之ヲ長期下士トス

明治三十二年十二月一日前ニ於テ再服役ヲ許サレタル上等兵、看護手及樂手補ニシ

テ同日以後下士ニ任セラレタル者亦同シ

第七十三條 明治三十二年十二月一日前採用シタル憲兵科及軍樂部現役兵卒再服役

除クノ服役期限ハ左ノ如シ

一 憲兵上等兵ニシテ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ六箇年ニ滿タサル者ハ六箇年ニ

滿ツル年ノ十一月三十日迄トシ六箇年ヲ過クル者ハ明治三十三年三月三十一日

迄トス

二 樂手補ハ樂生ヲ命セラレタル月ヨリ七年四箇月

第七十四條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル豫備役後備役特務曹長ノ服役期

限ハ従前ノ規定ニ依ル

陸軍服役條例

第七十五條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル豫備役下士及憲兵科軍樂部兵卒並第七十條第七十三條ノ下士及憲兵科軍樂部兵卒ニシテ同日以後豫備役ニ轉入スル者ノ服役期限ハ第七十條第七十三條ノ年月ヲ通算シ七箇年ニ滿ツル年ノ翌年三月三十一日迄トス
明治三十二年十二月一日前ヨリ再服役ヲ爲シ同日以後豫備役ニ轉入スル者ノ服役期限亦前項ニ同シ

第七十六條 明治三十二年十二月一日前轉入シタル後備役下士及憲兵科軍樂部兵卒並第七十條第七十三條第七十五條ノ下士及憲兵科軍樂部兵卒ニシテ同日以後後備役ニ轉入スル者ノ服役期限ハ第七十三條ノ年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿ツル年ノ翌年三月三十一日迄トス
明治三十二年十二月一日前ヨリ再服役ヲ爲シ同日以後後備役ニ轉入スル者ノ服役期限亦前項ニ同シ

第七十七條 豫備役後備役上等兵中軍吏部下士適任證書又ハ砲兵工科學校、經理學校卒業證書ヲ所持スル者ハ當分第三百三十二條ニ依リ滿期後引續キ服役スルコトヲ得
附則
本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍省令第十四號
陸軍兵籍規則左ノ通改正ス

明治三十年五月二十二日

陸軍大臣子爵高島勲之助

陸軍兵籍規則

第一條 陸軍兵籍ハ陸軍軍人及補充兵ノ身上ニ關スル必要ノ諸件ヲ登記スルモノトス

第二條 陸軍兵籍ハ分テ第一種及第二種トス
第一種兵籍ハ將校同相當官及准士官ニ第二種兵籍ハ士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏下士兵卒雜卒職工ヲ包シ第一補充兵及諸生徒陸地測量部修技所生徒ヲ除ク以下同シ
ニ用ニ

第三條 陸軍兵籍ノ正本ハ左ニ掲クル軍隊官衙學校教導團ヲ包含ニ備置クモノトス

一 現役將官同相當官監督部衛生部獸醫部上長官士官軍吏部士官ハ陸軍省但休職停職ノ者ヲ除ク

二 參謀官ハ參謀本部

三 軍隊附將校隊外ニ奉職スル、步、騎、砲、工、輜重兵科中少尉ヲ包含ス及准士官ハ該隊本部

陸軍兵籍規則

四 隊外現役將校歩、騎、砲、工、輜重及准士官ハ官衙又ハ學校

五 現役軍樂部士官及准士官ハ官衙又ハ學校

六 現役下士兵卒歸休兵ハ中隊又ハ聯「大」隊中隊又ハ聯「大」隊ヲ爲本部若クハ官衙學校ササル隊ニ在テハ該隊

七 休職停職豫備役後備役ノ將官同相當官ハ師團司令部

八 休職停職豫備役後備役將校同相當官將官同相當官ヲ除ク准士官下士兵卒歸休兵及第一補充兵ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部

九 士官候補生見習醫官見習藥劑官見習獸醫官見習軍吏其ノ他諸生徒ハ聯隊聯隊ヲ爲本部又ハ官衙學校ル隊ニ在テハ該隊

第四條 將校將官ヲ除ク及准士官ノ兵籍ハ陸軍省ニ將官同相當官參謀官隊外中少尉憲兵科ヲ除ク及監督部衛生部獸醫部軍吏部將校同相當官ノ兵籍ハ官衙又ハ學校ニ其ノ副本ヲ備置クヘシ但豫備役後備役將校同相當官ノ兵籍ハ總テ陸軍省ニ其ノ副本ヲ備置クモノトス豫備役後備役將校同相當官及下士ニシテ官衙學校又ハ憲兵隊ニ奉職スル者ニ在テハ前項ノ外更ニ副本ヲ其ノ官衙又ハ本部ニ設ケ置クヘシ

第五條 第一種兵籍ハ新ニ將校同相當官及准士官ニ任セラレタルトキ軍隊官衙學校ニ於テ正副二本ヲ調製シ其ノ一本ハ順序ヲ經テ一週日以内ニ發送シ陸軍省ヘ差出スヘシ但任官同時ニ他ニ轉屬スルモノハ其ノ一本ヲ新所屬ニ送付スヘシ

第六條 第二種兵籍ハ入隊又ハ入校ノ時該隊又ハ學校ニ於テ調製スヘシ但第一補充兵ノ兵籍ハ其ノ始メテ役ニ就クトキ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ於テ調製スヘシ

第七條 轉職轉役其ノ他所屬ヲ變換スルトキハ原所屬ヨリ直ニ其ノ兵籍ノ正本又ハ副本ヲ新所屬ヘ送致スヘシ但新ニ參謀官ニ補セラレ又ハ中少尉憲兵科ヲ除クニシテ隊外ニ轉シ若クハ第四條第二項ニ該ル者アルトキハ原所屬ニ於テ副本ヲ調製シ之ヲ新所屬ニ送付スヘシ

第八條 第二補充兵ノ兵籍ハ補充兵名簿ヲ以テ之ニ充テ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ備置クヘシ但第一補充兵初メテ召集ニ應シタルトキハ第二種兵籍ニ改ムヘシ

第九條 現役中傷痍疾病ニ由リ常備後備役免除兵役免除トナリ又ハ服役十二箇年四箇月ヲ過キ若クハ現役年限年齢ニ滿チ免官免役トナリタル者及死亡者ノ兵籍正本ハ聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ送付スヘシ

ト雖トモ空書ヲ置カサルモノトス

「三 任免補職等ノ月日ハ辭令ノ日ヲ記載スルモノトス」

「四 出戰務ハ朱書スヘシ但出戰軍ニ編入セラレタル者外國戰ニ當リテハ內國港灣發著ノ月日、內國戰ニ當リテハ戰地ニ臨ミタル月日及戰地ヲ去リタル月日、望戰(合圍)地境內ニ於テ服役シタルトキハ其始終ノ月日又外國ノ鎮戍ニ編入セラレタル者ハ內國港灣並外國港灣發著ノ月日ヲ記載スヘシ」

「五 父母祖父母兄弟姊妹ハ同戶籍中ノ者ヲ記載スヘシ」

「六 妻ノ區畫合式婚姻トハ陸軍武官結婚條例ニ依リ結婚シタルモノヲ謂ヒ婚姻トハ軍籍ニ入ラサル前結婚シタルモノヲ謂フ」

料紙西ノ内紙 九寸

現役年期	何箇年	何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル	備
入隊	何兵(士官候補生)トシテ何年何月何日何隊(教導團)へ入隊	適任(何年何月何日) 證書(士官(下士)適任證書賜フ)	特業(電信術或ハ何々)
兵科	何兵	所管(何師團何聯隊) 何大隊	本籍(何府(縣)何官(區)(市)等) 町(村)番地
族籍	華(士)族(平民)	本籍	名 氏 (某長(次)男(兄)(弟) 戸主)
現役年期	何箇年	何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル	額 幹 生 誕 何年月日 死 何年何月何日 亡 何年何月何日 戰(病)死

陸軍兵籍規則

再服役年期	何箇年	同
豫備役年期	何箇年	同
後備役年期	何箇年	同
免役除役	何年何月何日何々ニ依リ免役(免官)(除役)	考
公傷公病	何年何月何日何地ニ於テ何々ニ依リ何傷(病)ヲ受ク	
褒賞	何年何月日褒賞休業何日間○何年何月日善行證書ヲ賜フ	
刑罰	何年何月日何々ノ科ニ依リ輕營倉(禁足)何日間	
陸軍出身	何年何月日何省御用掛	
前ノ履歷	陸軍出身後ノ履歷	

第二種陸軍兵籍

鼻	口	髮	痘	別	徵	妻	子	父	母	兄弟	姊妹
						何年何月日合式婚姻(婚姻) 何某長(次)女 某	嗣子長男 何年何月日生 某 何年何月日生 某 何年何月日生 某 何年何月日生 某	父祖 何年何月日生 某	母祖 何年何月日生 某	兄弟 何年何月日生 何某何年何月日生 何某何年何月日生 何某何年何月日生 何某何年何月日生	姊妹 何年何月日生 何某何年何月日生 何某何年何月日生 何某何年何月日生

明治	何月日教導團卒業○同日陸軍何兵 二等軍曹○同日歩兵第何聯隊附○	明治	何月日給養掛(何々書記)○何 月日第何聯隊附免何司令部附
何軍	何月日何中隊附	何軍	
明治	何月日一等卒(喇叭手)		
明治	何月日何學校入校何月日退校○何 何年何月日一等給下賜○何月日曹長	明治	何月日何々ニ付何地へ派出何 何年何月日歸著○何月日何々助教
明治	何月日長途行軍(野營演習)トシテ 何地へ出發何月日歸著		
明治	何月何日ヨリ何月何日迄何隊ニ於 テ勤務演習		

- 一 賞罰ハ陸軍出身以來ニ係ハルモノヲ掲ク但生徒中ノ罰科ハ記載セス
- 二 陸軍出身後ノ履歴ハ逐年順次ニ記載スヘシ若シ某ノ年間記スヘキ事項ナキトキト雖トモ空畫ヲ置サルモノトス
- 三 任免命課等ノ月日ハ辭令ノ日ヲ記載スルモノトス

- 四 出戦務ハ朱書スヘシ但出戦軍ニ編入セラレタル者外國戰ニ當リテハ内國港灣發著ノ月日、内國戰ニ當リテハ戰地ニ臨ミタル月日及戰地ヲ去リタル月日、臨戰(合圍)地境内ニ於テ服役シタルトキハ其始終ノ月日又外國ノ鎮戍ニ編入セラレタル者ハ内國港灣並外國港灣發著ノ月日ヲ記載スヘシ
- 五 等級ハ現等ヲ記載ス但二等卒ハ記載スルニ及ハサルモノトス
- 六 父母祖父母兄弟姊妹ハ同戶籍中ノ者ヲ記載スヘシ
- 七 妻ノ區畫合式婚姻トハ陸軍武官結婚條例ニ依リ結婚シタルモノヲ謂ヒ婚姻トハ軍籍ニ入ラサル前結婚シタルモノヲ謂フ

陸軍省令第十五號

陸軍戰時名簿規則左ノ通定ム

明治三十年五月二十二日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

陸軍戰時名簿規則

第一條 陸軍戰時名簿ハ陸軍軍人軍屬及兵役義務アル者動員以後身上ニ關スル必要ノ諸件ヲ登記スルモノトス

第二條 陸軍戰時名簿ハ分テ第一種及第二種トス
第一種戰時名簿(第一様式)ハ將校同相當官准士官、第二種戰時名簿(第二様式)ハ下
士兵卒 雜卒職工ヲ包 補充兵國民兵軍屬ニ用ユ

第三條 戰時名簿ハ將校同相當官准士官下士兵卒ノ始メテ任官サレタルトキ又ハ入隊
シタルトキ軍隊官術學校 教導團ヲ包含ニ於テ調製スヘシ
第一補充兵ノ戰時名簿ハ始メテ其ノ役ニ就クトキ聯隊區司令部 警備隊區ニ在テハ警
ニ於テ調製スヘシ但人相ハ本人ノ始メテ召集ニ應シタルトキ聯隊區司令部ヨリ名簿
ヲ召集部隊ニ送付シ該部隊ニ於テ之ヲ記入スルモノトス

第一國民兵ノ戰時名簿ハ編入前調製ノモノヲ以テ之ニ充テ第二補充兵及第二國民兵ノ戰時名簿ハ其ノ召集ニ應シタルトキ諸部團隊ニ於テ調製スヘシ

第四條 戰時名簿ハ復員後更ニ之ヲ調製シ舊名簿ニ記載スル叙位叙動任官進級其ノ他

履歷中主要ノ事項ヲ兵籍ニ轉載スヘシ但第一國民兵ノ名簿ハ更ニ調製スルヲ要セス

第五條 留守擔當者ノ氏名現役將校同相當官ノ寄留地及動員前ノ所屬ハ應用ノ際軍隊

官衙學校ニ於テ記入スルモノトス但師團長ハ平時ヨリ之ヲ記入スルノ規定ヲ設タル

コトヲ得

第六條 豫備役後備役下士兵卒第一補充兵元下士以下ナル第一國民兵ノ戰時名簿ニ記

載スル人相ハ召集ノ際諸部團隊ニ於テ本人ニ照合シテ訂正スルモノトス

第七條 戰時名簿ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ備フヘシ

在職將校同相當官准士官現役下士兵卒歸休兵ヲ除ク軍屬ハ軍隊官衙學校

休職停職豫備役後備役將官同相當官ハ師團司令部其ノ召集中ハ諸部團隊

休職停職豫備役後備役上長官士官同相當官准士官豫備役後備役下士兵卒歸休兵第一

補充兵ハ聯隊區司令部其ノ召集中ハ諸部團隊

第一國民兵ノ戰時名簿ハ本籍地市區役所町村役場戸長役場及之ニ準スヘキモノ

第八條 第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ハ聯隊區司令官警備隊區ニ在テヨリハ警備隊司令官

本籍地ノ島司郡市區長ニ送付スヘシ島司郡長ニ在テハ町村長戸長及之ニ準スヘキ者

ニ送付スヘシ

第九條 轉職轉役及在郷者ノ轉籍等所屬ヲ轉換シタル者ノ戰時名簿ハ舊所屬ヨリ新所

屬ニ送付スヘシ但現役ヨリ第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ戰時名簿ハ聯隊區司令部

ニ送付スヘシ

第十條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏ノ戰時名簿ハ戰

役中動員ヲ行ヒタル諸部團隊ニ附屬シタルトキ其ノ諸部團隊ニ於テ本人ノ階級ニ應

シ將校下士兵卒ニ準シテ調製スヘシ

附則

第十一條 第一國民兵戰時名簿ハ従前ノ名簿ヲ以テ之ニ充テ漸次改正ノ名簿ニ改ムル

モノトス

族籍 〔華士族 (平民)〕		本籍 〔何府(縣)何郡 (市)何町何番地〕		官名 〔何兵大尉氏 某長(次)男(兄)(弟)戶 主〕	
寄留 〔記載方右ニ 同シ〕		位階 〔從何位 功何級〕		從何位 功何級 名	
動員前 〔在郷將校同相當官 及准士官ニ在テハ 其所屬聯隊區名ヲ 記スヘシ〕		動員後 〔何兵第何 聯隊(大隊)〕		誕生 〔何年月日〕	
賞典 〔動員後ニ係ルモノヲ記載ス〕		刑罰 〔動員後ニ係ルモノヲ記載ス〕		死亡 〔何年月日何 地ニ於テ戰(病) 死〕	
動員後履歷			動員前路履歷		
明治何年何月何日第何師團參謀被仰 付○何月何日何地出發同何日何地上陸 ○何月何日何地ニ於テ戰闘○何月何日 任少佐同日第何聯隊第何大隊長被仰付 ○何月何日何地ニ於テ戰闘○何月何日 貫通銃傷ヲ受ケ何地ニ於テ戰闘○何月何日 何月全癒退院何地ニ於テ戰闘○何月何日 何月何日何々ノ功ニ依リ何々ニ叙セラ 日○何年何月何日中隊長ヲ免シ何々ニ					

レ何動章ヲ賜フ○何月何日何地出發同
 何日何地ニ於テ乘船同何日何地ニ上陸
 何月何日凱旋

〔記載方ハ其梗概ヲ示スノミ宜シク類ヲ推シテ記載スヘシ(動員前路履歷)ノ區畫ニハ任官叙位叙勳ニ關シ調査上必要ノ事項ヲ記載シ(動員後履歷)ノ區畫ニハ動員後平定迄ニ係ル任官叙位叙勳功績其他主要ナル經歷ヲ記載スヘキモノトス〕

留守擔當者ノ住所氏名

第一種戰時名簿

九寸

料紙西ノ内紙半葉		族籍 〔華士族 (平民)〕		本籍 〔何府(縣)何郡(市) 區何町(村)何番地〕		官名 〔何兵何等 軍曹(二等卒)〕		氏 〔某長(次)男(兄) (弟)(戶主)〕	
認識票 第何番		寄留 〔記載方右ニ同シ〕		位階 〔從何位 功何級〕		從何位 功何級 名		〔爵何某〕	
特業 〔擔架術或 ハ何々〕		入隊 〔明治何年何月何 兵トシテ何隊へ〕		勳等 〔功何級〕		死亡 〔何年月日何 地ニ於テ戰(病) 死〕			
動員前 〔何聯隊區〕		動員後 〔何兵第何 聯隊(大隊)第何 中隊〕		誕生 〔何年月日〕		死亡 〔何年月日何 地ニ於テ戰(病) 死〕			
賞典 〔動員後ニ係ルモノヲ記載ス〕		刑罰 〔動員後ニ係ルモノヲ記載ス〕							

陸軍戰時名簿規則

本川下

相題	人幹		髮	顏	眉	額	痘	眼	鼻	口	再服	役
	何年何月何日	何年何月何日										
<p>明治何年何月何日充員召集ニ應シ何隊ニ編入○何月何日何地出發同何日何地上陸○何月何日何地ニ於テ戰闘○何日何官○何月何日何々ノ功績○何月何日何々ニ依リ重禁錮ニ箇月ニ處セラル○何月何日何地戰闘ノ際何々ニ部ニ貫通銃傷ヲ受ケ即何病院ニ入ル○何月何日召集解除</p>												
<p>明治何年何月何日任何官(一等卒被申付)○何年何月何日豫備役編入○何年何月何日召集ニ應シ何隊ニ編入何戰役ニ從軍○何年何月何日召集解除ニ依リ何々○何年何月何日召集解除</p>												

動員後履歷

動員前略履歷

第二種戰時名簿

「記載方ハ其梗概ヲ示スルニ宜シク類ヲ推シテ記載スヘシ(動員前略履歷)ノ區畫ニハ任官叙位叙勳ニ關シ調査上必要ノ事故ヲ記載シ(動員後履歷)ノ區畫ニハ動員後不定迄ニ係ル任官叙位叙勳功績其他主要ナル經歷ヲ記載スヘキモノトス」

留守擔當者ノ住所氏名

陸軍軍人休暇規則

(明治二十九年七月八日陸達第百十八號)

第一條 軍人ノ休暇ヲ分テ二トス

一 賜與休暇

二 請願休暇

第三條 賜與休暇ハ左ノ如シ

一 定例休暇

二 慰勞休暇

三 褒賞休暇

第三條 定例休暇ハ軍隊又ハ校團ニ在リテハ隊務又ハ教育上支障ナキ時期ニ於テ毎年之ヲ賜與ス但夏期ニ於テ之ヲ與フルヲ例トス

前項ノ休暇ハ官廨ニ在リテハ毎年七月上旬ヨリ九月下旬迄ノ間ニ於テ勤務ニ支障ナキ者ニ之ヲ賜與ス

定例休暇ノ日數左ノ如シ但此日數ハ數回ニ分割シテ賜與スルコトヲ得

准士官以上 三週日以内

下士 二週日以内

陸軍軍人休暇規則

第四條

定例休暇ハ團隊長官司ノ長ニ於テ部下掌務ノ緩急ヲ量リ便宜賜與スヘシ

第五條

慰勞休暇ハ軍人演習等ノ爲メ山野ヲ跋涉シ又ハ新兵ノ教育ヲ完了シタル等其

勞多キ者ニ臨時之ヲ賜與ス其賜與ノ權限左ノ如シ

上長官以上ヲ以テ充ツル團隊長官司ノ長

又ハ士官ヲ以テ充ツル獨立セル隊長 三日以内

士官ヲ以テ充ツル獨立セル隊長又ハ士官

准士官ヲ以テ充ツル獨立セル隊長 一日

第六條

褒賞休暇ハ在營下士以下行狀方正勤務勉勵ニシテ且ツ學術技藝ニ熟達シ他人

ノ模範トナルヘキ者ニ臨時之ヲ賜與ス其賜與ノ權限左ノ如シ

團隊長

一箇月ニ一日

第七條 請願休暇ハ左ノ如シ

一 准士官以上ハ飯省又ハ轉地療養其他事故アリテ休暇ヲ要スルトキ本人ノ願ニ依

リ之ヲ許可ス其日數ハ往復ヲ除キ四週日以内トス

二 下士以下ハ父母病氣又ハ死亡等ニテ飯省ヲ要スルトキ親族ノ出願ニ依リ之ヲ許

可ス其日數ハ往復ヲ除キ二週日以内トス

三

營外居住下士以下ニ在テハ前項ノ外醫師ノ診斷ニ依リ轉地療養ヲ要スルトキ本

人ノ願ニ依リ之ヲ許可ス其日數ハ往復ヲ除キ四週日以内トス

在營下士以下ノ轉地療養ノ規則ハ別ニ定ムル所ニ依ル

四

外國駐劄ノ諸隊ニ在テハ疾病ニ依リ轉地療養ヲ爲スモノノ外本條ノ休暇ヲ許サ

サルモノトス

第八條

飯省旅行中發病或ハ轉地療養中快復ニ至ラサル者ハ休暇ノ延期ヲ請願スルコ

トヲ得

第九條

將官並相當官ノ請願休暇ハ陸軍大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フモノトス故ニ其願書

ハ大臣ニ宛テ差出スヘシ但上官ノ下ニ在ル將官ハ該上官ヲ經由スヘシ

第十條

上長官以下ノ請願休暇ハ左ニ掲クル諸官之ヲ許可ス其權限左ノ如シ

大臣並將官同相當官又ハ將官上長官ヲ以テ充ツル團隊長長官司ノ長

上長官又ハ上長官士官ヲ以テ充ツル獨立セル隊長並官司ノ長

又ハ士官准士官ヲ以テ充ツル獨立セル隊長官司ノ長並分屯隊長

四週日
二週日

第十一條 上長官以下休暇ヲ請願スルトキハ直屬ノ長ヘ願出ツヘシ直屬長ニシテ休暇許可ノ權ヲ有スル者ハ其權限ニ由テ之ヲ許可シ其權ナキカ又ハ權限外ニ涉ル日數ナルトキハ順序ヲ經テ其權アル所屬上官ノ許可ヲ請ヒ其旨ヲ指令スヘシ

第十二條 各種ノ休暇ハ掌務繁劇ナルトキハ賜與又ハ許可セサルコトアルヘシ
 休暇中動員ノ令下リタルコトヲ聞クトキハ直ニ其所屬ニ復飯スヘシ

第十三條 准士官以上ハ定例休暇中並慰勞休暇中トモ便宜飯省旅行等ヲ爲スコトヲ得但シ豫メ其行先ヲ直屬ノ長ヘ届出ヘシ

下士ニ在テハ定例休暇中ニ限リ官司ノ長若クハ直屬ノ長又ハ團隊長ノ許可ヲ得テ飯省旅行又ハ外泊ヲ爲スコトヲ得

外國駐劄ノ諸隊ニ在テハ本條ノ飯省旅行等ヲ許ササルモノトス

第十四條 在營ノ下士以下休暇ヲ得テ在營スルトキハ勤務演習ヲ休業セシメ朝食後ヨリ日夕點呼前迄外出ヲ許可スルコトヲ得

第十五條 一部隊ニ休暇ヲ與ヘタルトキヲ除クノ外下士以下休暇ヲ得テ外出スルトキハ外出免許札ヲ携持セシムヘシ

第十六條 轉地療養ノ爲メ休暇ヲ願フトキハ願書ニ陸軍醫官醫官アラサルトキハ地方醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十七條 下士以下父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ飯郷ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作リ病氣ナレハ醫師特別市制施行地ハ區長市町村長ノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙ニ差出シ之ヲ許可シタルトキハ其指令ハ本人ニ下付スヘシ

第十八條 下士以下休暇ヲ得テ旅行スル者ニハ左式ノ休暇免許證ヲ付シテ之ヲ携帶セシメ服裝ハ略裝トス

兵種隊號	官(卒職工) 姓 名
表	休暇免許證 <small>該隊之印</small>
裏	一 此證書ハ表記ノ者ニ休暇ヲ與フルノ證トス 一 休暇日數何日(往復日數何日) 一 何月何日何時何地出發何地ニ至リ何月何日何時マテニ必ス何地ニ飯養スヘシ 年 月 日
職官姓名印	

官司所屬ノ者ニ在テモ亦之ニ準シテ調製附與スヘシ

陸軍軍人休暇規則

第十九條 第八條ニ依リ休暇ノ延期ヲ出願セントスル者ハ最初出願ノ手續ニ依リ更ニ出願シテ命ヲ待ツヘシ

途中發病又ハ船待川留雪支等ニテ不得已休暇日數ヲ超過スル場合ニ在テハ地方醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ證明書ヲ請ヒ歸着ノ上差出スヘシ

第二十條 此規則ニ於テ團隊長ト稱スルハ師團長以下各隊長警備隊司令官ヲ云ヒ官司ノ長ト稱スルハ官廳校團局課等ノ長官及參謀長ヲ云フ

附則

第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ事務ハ區戶長ニ於テ取扱フモノトス

陸軍省令第二十二號

陸軍埋葬規則左ノ通定ム

但陸軍隊附准士官下士卒埋葬規則並戰時陸軍埋葬規則ヲ廢止ス

明治三十年八月十七日

陸軍大臣子爵高島鞆之助

陸軍葬埋規則

第一條 在隊在職陸軍軍人軍屬並在郷軍人召集中死亡シタル者ノ埋葬ハ本規則ノ定ムル所ニ據ル但海外ニ鎮戍スル者ヲ除クノ外將校准士官特務曹長ヲ除ク並營外居住ノ下士兵卒職工及軍屬ハ特ニ規定ナキモノハ本規則ヲ適用セス

第二條 本規則ニ於テ將校以下ノ爲メニ定メタルモノハ同相當官以下ニ適用ス

第三條 見習士官、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫、見習軍吏其他ノ將校生徒ハ下士ニ下士生徒及雜卒ハ兵卒ニ軍屬タル高等官ハ將校ニ判任官ハ准士官若クハ下士ニ其他ハ兵卒ニ準ス其階級ニ數等アルモノハ各其相當階級ニ據ル

(臺灣ニ在テ死亡セシ者ノ遺骨或ハ遺髮ハ合葬)

第四條 死體ハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ若シ遺言シテ陸軍埋葬地外ニ葬ルヲ願ヒ又ハ親

陸軍埋葬規則

族ヨリ引受ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第五條 死體ハ火葬スルコトヲ得又海上ニ在テハ水葬スルコトアルヘシ但火葬又ハ水葬シタルトキハ必ス遺骨或ハ遺髪ヲ採收シ前條ニ據リ埋葬スルモノトス

臺灣ニ在リテ死亡シ又ハ傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ遺體ハ火葬スルヲ例トス

第六條 凡ソ軍人軍屬戰地ニ於テ死亡シ又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ之ニ起因シ戰地外ニ於テ死亡シタル者ハ陸軍埋葬地ニ葬ルヲ例トス其遺體ヲ親族ニ下附シタルトキハ其墓標ハ第八條ニ據リ建設シ其墳墓ノ坪數ハ第七條但書ニ據ラサルコトヲ得

將校以下前項ニ據リ死亡シタル者ニシテ陸軍埋葬地ニ葬ルヲ得サルトキハ一時假葬シ又ハ合葬スルコトヲ得但後必ス陸軍埋葬地ニ改葬スルモノトス其手續ハ總テ本規則ニ據ル

第七條 墓地ハ將校准士官下士兵卒毎ニ區畫ヲ定ムルモノトス但各墳墓ノ坪數ハ第一表ニ據ル

第八條 墳墓ニハ墓標ヲ建設ス其寸法ハ第二表ニ據ル但假葬ノ場合及臺灣ニ在テハ適宜ニ其尺度形狀ヲ變スルコトヲ得

第九條 墓標ハ其表面ニ官位勳功爵氏名墓ト記シ左側面ニ死亡ノ年月日ヲ記スヘシ但其後面並右側面ニハ所要ノ碑文ヲ記スルコトヲ得

第十條 陸軍埋葬地ニ葬リタルモノト雖モ親族ヨリ改葬ヲ願フトキハ之ヲ許スコトアルヘシ但傳染病ニ罹リ死亡シタル者ニ在テハ傳染病豫防法ニ據ル

第十一條 將校准士官ヲ除クノ外埋葬後十年ヲ經タルモノハ之ヲ合葬スルコトヲ得前項ニ據リ合葬シタルトキハ在來ノ墓標ヲ合葬地ニ並列ス但合葬ノ爲メ更ニ墓標ノ建設ヲ要スルモノハ表面ニ陸軍軍人(軍屬)合葬ノ墓ト記シ右側ヨリ背面ニ連テ官位勳功爵氏名ヲ列記シ其各氏名ノ左傍ニ死亡ノ年月日ヲ記シ左側面ニハ何年何月何日建ト記スルモノトス

臺灣ニ在リテハ適宜前二項ノ規定ヲ變スルコトヲ得

第十二條 前條ニ據リ合葬スル者ノ墓標ハ合葬人員ノ多少ニ據リ適宜ニ之ヲ定ムヘシト雖モ其高サハ第八條ノ規定ニ據ル

第十三條 陸軍埋葬地ノ設ケナキ地ニ在テハ近傍適宜ノ埋葬地ニ假葬シ若クハ火葬トナシ其遺骨或ハ遺髪ヲ收拾シテ後陸軍埋葬地ニ葬ルモノトス

第十四條 前條ニ據リ埋葬シタル者ノ墓標ハ第八條ニ據ル

第十五條 歸省中死亡シタル者ハ埋葬料ヲ其親族ニ下附シテ埋葬セシム

第十六條 陸軍埋葬地ニハ親族故舊ヨリ燈籠水鉢等ノ建設ヲ願フモ之ヲ許サス但寺院等一般ノ墓地ニ埋葬シタルモノハ此限ニアラス

第十七條 死者ヲ歛スルトキハ帽衣袴靴ヲ著セシムルモノトス其親族ノ願ニ據リ死體ヲ引渡ストキハ定則ノ如ク之ヲ歛シ白布ヲ以テ棺上ヲ覆フヘシ其棺柩及白布ノ費用ハ埋葬料ノ内ヨリ支辨シ其殘金ハ親族ニ下附ス

第十八條 死亡シタル者アルトキハ本人所屬部隊校團等ヨリ其病狀竝死亡時刻ヲ勉メテ急速ニ親族ニ通報シ若シ死體ノ引受ヲ願フモノハ死亡ノ日ヨリ二日臺灣ニ在リテハ死亡セシ者ノ遺骨遺髮ハ四十日以内ニ死者所屬ノ部隊及校團等ニ願出ツヘキ旨ヲ告ケ其期日内ニ願出サルトキハ陸軍埋葬地ニ葬ルヘシ

死體ハ死亡ノ時ヨリ二日以内ニ埋葬スヘカラス但傳染病等ニ罹リ此期限ヲ待ツヘカラサルモノ又ハ戰時事變ノ際若クハ親族遠隔ノ地ニ在ルモノハ二十四時間ノ後埋葬スルコトヲ得

第十九條 死體ノ引受ヲ願フモノハ前條ノ期日内ニ通報ヲ受ケタル部隊校團等ニ願書ヲ出スヘシ但傳染病ニ罹リ死亡シタルモノニ在テハ死體引受ノ願書ニ其埋葬等ハ傳染病豫防法ニ據ルヘキ旨ヲ記入スヘシ

死體ヲ引渡ストキハ部隊長又ハ校團長ハ軍醫ノ死亡證書ニ基キ書式ニ據リ埋葬證書ヲ附與スヘシ

第二十條 將核准士官 特務曹長ヲ除ク 營外居住ノ下士兵卒ハ本人ノ遺言又ハ親族ヨリ請願スルモノハ陸軍埋葬地ヲ貸與スルヲ得但第七條乃至第十二條及第十六條ヲ適用ス

第二十一條 戰時戰地ニ於ケル死亡者ノ通報ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第一表

將官同相當官	上	長	官	士	官	准	士	官	下	士	兵	卒
縱	二間半	同	二間半	同	二間	同	二間半	同	二間	同	二間	同
横	一間半	同	一間	同	一間	同	一間	同	一間	同	一間	同
三坪七合五勺	二坪五合	二	坪	一坪五合	一	坪	一	坪	一	坪	一	坪

第二表

將官同相當官	上	長	官	士	官	准	士	官	下	士	兵	卒
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

高	五尺	同四尺五寸	同	四尺	同	三尺	同二尺五寸	同二尺
方	一尺	同九寸	同	八寸	同	七寸	同六寸	同五寸

(埋葬證書式)

埋葬證書	
族籍	姓名
	年齢
病名	
死亡年月日	午時
年月日	
部隊長	姓名印

36六終

朕陸軍管區表改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽
 明治二十九年十二月二日
 勅令第三百八十一號
 陸軍管區表左ノ通改正シ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

陸軍管區表

師管聯隊區警備隊區		府		縣	
麻布	東京	麻布區	麴町區	神田區	日本橋區
橫濱	神奈川	橋本區	小石川區	牛込區	芝區
高崎	群馬	久良岐郡	鎌倉郡	三浦郡	中郡
長野	長野	上野郡	下野郡	山梨	
佐倉	千葉	入間郡	比企郡	秩父郡	兒玉郡
水戸	茨城	水戸市	東茨城郡	西茨城郡	那珂郡
本郷	東京	本郷區	淺草區	下谷區	南葛飾郡
		深川區	南足立郡	北豐島郡	本所區
			北葛飾郡	北足立郡	南葛飾郡

陸軍管區表

四 賑恤金
 五 給助金
 六 扶助料

第三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給及寡婦ノ扶助料ハ修身、孤兒ノ扶助料ハ年齢満二十歳ニ至ルマテ賑恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章 退職恩給、免除恩給、増加恩給

第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルト之ヲ給ス

一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス退職シタルトキ

二 戦闘及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

三 戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ従事シ爲メ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

四 現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖休職、停職満期若クハ諭旨ニ依テ退職シタルトキ

第五條 免除恩給ハ下士以下左ニ掲タル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ服役満期トナリ或ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

二 第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

第六條 退職恩給、免除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十一年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス

第七條 軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス

第八條 退職恩給、免除恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退

職又ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

- 一 再ヒ現役ヲ離ルルトキノ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スル恩給ハ既得ノ恩給トヨ比較シ其多キ方ヲ給ス
- 二 前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ増加セス

第九條

増加恩給ハ戰鬪及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲タル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ
- 二 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 三 一肢ヲ亡シ若シクハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
- 四 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
- 六 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス

第十一條 戰鬪及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ検査ヲ願出ルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

- 一 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二箇年
- 二 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三箇年

第十二條 傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ

- 一 傷痍疾病ノ原因ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書
- 二 傷痍疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ査覆ヲ經タル醫師ノ證書

第十三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マ

リ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第三章 賑恤金、給助金

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス

一 戦闘及戰地公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

二 戰時平時公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

第十五條 賑恤金ハ之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ應シ前條第一ニ當ル者ハ第三號表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラス前條第二ニ當ル者ハ同表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額トス

第十六條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ若クハ現役四年以上十一年未滿ニシテ現役ヲ離レ退職恩給、免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス其額ハ第四號表ニ依ル

第四章 服役年

第十七條 服役年ノ始期終期ハ左ノ各項ニ依ル

第一 退職恩給、免除恩給ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上ハ初任ノ日陸軍兵卒ヨリ出身ノ下士以上ハ入營ノ日海軍卒ヨリ出身ノ下士以上ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第六ニ當リタル者ハ其兵卒トナリタル日

二 陸軍兵卒ハ入營ノ日海軍卒ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日

三 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ士官以上ハ其士官ニ任シタル日

四 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

五 海軍下士以下ニシテ明治二年五月一日以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

第二 給助金ニ係ル服役年ノ始期

一 下士以上初任ノ日

第三 服役年ノ終期

一 現役ヲ離レタルノ日

第十八條 左ニ掲クル服役年ノ日數ハ服役年ニ通算ス

一 前條ニ掲クル服役年ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテノ日數

二 豫備後備ニ在ル者戰時若クハ事變ニ際シ召集シタルトキハ其召集中ノ日數

三 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナリタルトキハ海軍服務ノ日數陸軍軍人轉シテ海軍

軍人トナリタルトキハ陸軍服務ノ日數

四 文官ヨリ轉シテ陸海軍軍人トナリタル者ニ在テハ恩給ヲ受クヘキ最下限ノ期ニ

至ルマテハ文官服務中ノ日數四分ノ三

五 現役ノ者陸軍見習士官、海軍候補生若クハ陸海軍諸生徒トナリ再ヒ現役ニ就キ

タルトキハ前後ノ日數

六 現役ヲ離レタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數

七 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒、海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規

ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シタルトキハ其日數

第十九條 左ニ掲クル日數ハ服役年ヨリ除算ス

一 刑期中及逃走中ノ日數

二 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒中ノ日數但從軍中ノ日數ハ此限ニア

ラス

三 文官奉職中ノ日數ニシテ官吏恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

四 年齢十七歳未滿ノ日數

第五章 從軍年

第二十條 從軍年ハ現役外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモノトス

第二十一條 從軍年ノ加算ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ内國港灣ヲ出發シタルトキハ二箇年

二 内國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ臨ミタルトキハ一箇年

三 臨戰合圍地境内ニ於テ服役シタルトキ外國ニ在テハ二箇年内國ニ在テハ一箇年

四 日本國外ノ鎮戍ニ在アリタルトキハ一箇年

五 出征事件ニ關シ功績アル者及一時ノ出兵ヲ出征軍ト見做シ從軍年ニ加算スヘキ

場合ハ勅裁ニ依ル

第二十二條 海軍軍人ノ外國航海ハ從軍年ニ準シ内國港灣出發ノ日ヨリ一航海ヲ半箇年ニ加算ス其航海十二箇月ニ超ユルトキハ更ニ半箇年ヲ加算ス但第二十一條ニ當ルトキハ本條ヲ適用セズ

第二十三條 從軍年ノ加算ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從ヒ若クハ航海ヲ爲スト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ亘リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ更ニ一役若クハ一航海ト爲ス

第六章 恩給ヲ受クヘキ資格及權利ノ消滅停止

第二十四條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給、免除恩給、増加恩給、賑恤金、給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法劊官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ
- 四 將校及相當官ニ於テハ陸海軍將校分限令第二條第一項第六項ニ依リ免官トナリ

タルトキ

五 准士官以下願ニ依リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

六 陸海軍下士陸軍上等兵看護手樂手補ニ於テハ陸海軍刑法普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒ若クハ陸軍懲罰令若クハ憲兵條例第二十五條ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ

七 諸卒ニ於テハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸海軍刑法ニ依リ將校ニ對シテ劊官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十五條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ劊奪ス
左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間之ヲ停止ス

- 一 再ヒ現役ニ就キ若クハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ
但商業ヲ營ムロトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキ及准士官下士ニシテ文官判任以上ニ任セラレタルトキハ此限ニアラス

附則 (本法ハ三十三年四月一日ヨリ施行ス)

二 公權ヲ停止セラレタルトキ
 増加恩給ハ公權ヲ停止セラレタル場合ニアラサレハ停止セサルモノトス
 第二十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ
 拋棄シタルモノトス

第七章 扶助料

第二十七條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アル
 モノトス

一 第四條第二第三ニ當リ死歿シタルトキ

二 第四條第一第四第五條第一ニ當リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受クヘキ權利ヲ有シテ死
 歿シタルトキ

第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ因由トニ依リ前條第一ニ當
 ルトキハ第五號表ニ依リ第二ニ當ルトキハ第六號表ニ依テ之ヲ給ス

第二十九條 扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

三 扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサルトキ

四 死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シタルトキ

第三十條 扶助料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間扶助料ヲ停止ス

第三十一條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死歿シ若クハ權利消滅シタルトキ

ハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第三十二條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ非戸主軍人ノ孤兒ニ在テ

ハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死歿シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキ

ハ順次年少者ニ及フモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第三十三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戸

籍ヲ去リ若クハ死歿シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ

相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ修身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス

母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第三十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死歿シタル軍人ノ戸籍内ニアル二十歳未満又ハ廢疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル

第三十六條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未満ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第三十七條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

雜則

第三十八條 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者退職若クハ免官スルトキハ同年七月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

海軍下士以下ニシテ明治二年五月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同年四月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第三十九條 豫備後備ニ在ル者平時召集中職務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受ル者平時軍隊勤務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキ亦同シ

第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ給助ヲ受クル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ因リ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第四十一條 恩給ノ支給ハ陸海軍大臣ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩

給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷痍疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪ユルト否ラサルトキ

第四十二條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押アルコトヲ得ス

第四十三條 明治八年達海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料及扶助料ヲ受クル者ハ總テ該令ニ依ルヘシ但明治九年達陸軍武官恩給令ニ依リ受ケタル傷痍恩給ヲ除クノ外其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

明治七年佐賀及臺灣ノ役明治九年熊本及山口ノ役明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シタル者並ニ明治十五年同十七年朝鮮國京城變亂ノ際該國ニ駐在若クハ派遣シタル者ノ從軍年計算ハ總テ從前ノ命令ニ依ル

第四十四條 此法律施行前ニ現役ヲ離レタル者ノ恩給ハ明治十六年達陸軍恩給令海軍

恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ月ヨリ三箇年以内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第四十五條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

第一號 退職恩給表

年數	親任官		勅任官		奏任官		准士官	
	將官及相當官	佐尉官及相當官	將官及相當官	佐尉官及相當官	將官及相當官	佐尉官及相當官	判任官	
十一年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十二年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十三年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十四年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十五年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十六年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十七年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	千二百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓

十八年	千六百七十三百四	千七百七十八	八百三十六	七百五十三	三百三十三	二百五十二	一百六十八
十九年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十一年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十二年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十三年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十四年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十五年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十六年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十七年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十八年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八
二十九年	千七百	千三百六十九	八百五十六	六百八十五	三百四十二	二百五十二	一百六十八

39十八

三十年	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十一	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十二	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十三	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十四	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十五	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十六	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十七	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十八	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
三十九	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八
四十年	千九百七十五	千五百八十三	八百九十五	五百九十三	二百九十八	九十八

軍人恩給法

第二號 免除恩給表

39十九

年 數	官					卒				
	判	任	官	海軍一	海軍二	陸軍卒	海軍四	海軍五	海軍三	等卒
十一年	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十四圓	四十圓	三十六圓	三十二圓	二十八圓		
十二年	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十五圓	四十一圓	三十七圓	三十三圓	二十九圓		
十三年	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十八圓	三十四圓	三十圓		
十四年	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十九圓	四十四圓	三十九圓	三十五圓	三十一圓		
十五年	六十九圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓	三十二圓		
十六年	七十二圓	六十五圓	五十八圓	五十三圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓	三十三圓		
十七年	七十五圓	六十八圓	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓		
十八年	七十七圓	七十圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓		
十九年	七十九圓	七十二圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十七圓		
二十年	八十一圓	七十四圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓		

二十一年	八十四圓	七十六圓	六十八圓	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十四圓	三十九圓		
二十二年	八十七圓	七十八圓	七十圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十六圓	四十圓		
二十三年	九十圓	八十一圓	七十二圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十二圓		
二十四年	九十二圓	八十三圓	七十四圓	六十七圓	六十一圓	五十五圓	四十九圓	四十三圓		
二十五年	九十四圓	八十五圓	七十六圓	六十九圓	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十四圓		
二十六年	九十六圓	八十七圓	七十八圓	七十一圓	六十四圓	五十七圓	五十一圓	四十五圓		
二十七年	九十九圓	八十九圓	八十圓	七十三圓	六十六圓	五十九圓	五十二圓	四十六圓		
二十八年	百二圓	九十二圓	八十二圓	七十五圓	六十八圓	六十一圓	五十四圓	四十七圓		
二十九年	百五圓	九十五圓	八十四圓	七十七圓	七十圓	六十三圓	五十六圓	四十九圓		
三十年	百七圓	九十七圓	八十六圓	七十八圓	七十一圓	六十四圓	五十七圓	五十圓		
三十一年	百九圓	九十九圓	八十八圓	八十圓	七十二圓	六十五圓	五十八圓	五十二圓		
三十二年	百十二圓	百一圓	九十圓	八十二圓	七十四圓	六十六圓	五十九圓	五十二圓		

軍人恩給法

三十三年	百十四圓百三圓	九十二圓	八十四圓	七十六圓	六十八圓	六十圓	五十三圓
三十四年	百十七圓百五圓	九十四圓	八十六圓	七十八圓	七十圓	六十二圓	五十四圓
三十五年	百二十圓百八圓	九十六圓	八十八圓	八十圓	七十二圓	六十四圓	五十六圓
三十六年	百廿二圓百十圓	九十八圓	八十九圓	八十一圓	七十三圓	六十五圓	五十七圓
三十七年	百廿四圓百十二圓	百圓	九十一圓	八十二圓	七十四圓	六十六圓	五十八圓
三十八年	百廿六圓百十四圓	百二圓	九十三圓	八十四圓	七十五圓	六十七圓	五十九圓
三十九年	百廿九圓百十六圓	百四圓	九十五圓	八十六圓	七十七圓	六十八圓	六十圓
四十年	百卅二圓百十九圓	百六圓	九十七圓	八十八圓	七十九圓	七十圓	六十一圓

第三號 負傷增加恩給表

將官及相當官 佐尉官及相當官

准士

下

士

卒

項	官	親任	勅任官	奏	任	官	判	任	官	海軍海軍陸軍海軍海軍
一	項	千五百八十七圓	千五百三十三圓	千四百三十三圓	千二百五十二圓	千五百五十四圓	千四百三十三圓	千三百三十三圓	千二百三十三圓	一等二等三等四等卒
二	項	千五百八十七圓	千五百三十三圓	千四百三十三圓	千二百五十二圓	千五百五十四圓	千四百三十三圓	千三百三十三圓	千二百三十三圓	一等二等三等四等卒
三	項	千五百八十七圓	千五百三十三圓	千四百三十三圓	千二百五十二圓	千五百五十四圓	千四百三十三圓	千三百三十三圓	千二百三十三圓	一等二等三等四等卒
四	項	千五百八十七圓	千五百三十三圓	千四百三十三圓	千二百五十二圓	千五百五十四圓	千四百三十三圓	千三百三十三圓	千二百三十三圓	一等二等三等四等卒

第四號 給助金表

將官及相當官

佐尉官及相當官

准士官

下

士

親任官	勅任官	奏	任	官	判	任	官
一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
千五百二十圓	千五百一十圓	千四百七十圓	千三百七十圓	千二百七十圓	千一百七十圓	千九十圓	千八十圓

第五號 戰鬥及公務ノ爲メ死歿シタル者ノ寡婦孤兒扶助料

軍人恩給法

- ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調査ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ
 - 一 現役中死歿シタル軍人ノ遺族ハ所管長官ヨリ下渡シタル死者ノ履歷書
 - 二 前項ノ者軍人恩給法第二十七條第一ニ當ルトキハ履歷書ノ外所管長官ヨリ下渡シタル公務ノ爲メ死歿シタル事實ヲ證明スヘキ書類
 - 三 恩給ヲ受ケタル軍人ノ遺族ハ其恩給證書
 - 四 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其轉給ヲ受クヘキ者ハ前者ノ恩給證書
 - 五 扶助料ヲ受クル者公權停止ニ因リ其轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫
 - 六 軍人恩給法第三十四條ニ當ル廢疾不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第一
- 第二若クハ第三若クハ第四ニ掲クル書類ノ外醫師ノ診斷證書
- 地方長官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ但明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シ陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル元警視局員ノ遺族ヨリ本條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地方長官ヨリ内務大臣ニ差出スヘシ
- 第四條 陸海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上請求ノ理由

- アリト認ムルトキハ恩給計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ、其傷痍疾病ニ起因スルモノニ付テハ陸軍省醫務局若クハ海軍中央衛生會議ノ覆覈ヲ經タル書類、軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ノ扶助料ニ付テハ陸海軍兵籍簿ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 陸海軍大臣又ハ内務大臣ニ於テ前項請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ
- 第五條 内閣ニ於テ恩給ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り陸軍省若クハ海軍省若クハ内務省ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ
- 恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ
- 第六條 軍人恩給法第三十八條ノ月俸ニシテ米給ニ係ルモノハ官吏恩給法施行規則第十一條ノ例ニ依ル
- 第七條 扶助料ヲ受クル者死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地方廳ニ於テ其月ノ翌月ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知ス

ヘシ大藏省ハ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ
前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其恩給證書ヲ
收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第八條 軍人恩給法第九條第十四條第十五條ノ傷痍疾病輕重ノ等差ハ陸海軍大臣之ヲ
定ム

第九條 明治八年達陸軍武官傷痍扶助死亡ノ者祭案家族扶助概則及海軍退隱令明治九
年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料扶助
料ヲ受タル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

- 一 死歿又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ
- 三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

第十條 明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ本
則ニ依ルヘシ

第十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職

務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十二條 本規則ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則ノ例ニ
依ル

陸軍省令第二十二號

陸軍軍人恩給取扱手續左ノ通定ム

明治二十三年七月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍軍人恩給取扱手續

第一條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ請求スル手續ハ軍人恩給法施行規則ニ示シタルモノノ外陸軍部内ニ在テハ此細則ニ準據スヘシ

第二條 退職恩給免除恩給増加恩給ノ請求書ハ當該軍人現役ヲ離レタル後第一第二書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長之ヲ調査シ計算書(第九書式)ヲ作り順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 傷痍疾病ニ基ク恩給ノ請求ニ係ルトキハ所管長官其診斷證書(第五書式)ヲ軍醫長ニ移シテ審査セシメタル上陸軍大臣ニ進達スヘシ

地方醫師ノ診斷證書ヲ以テ恩給ヲ請求スルハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限ル其證書ニハ原因經過療法及ヒ現症ヲ詳記シテ醫師二名署名セシムヘシ所管長官ハ醫官ヲシテ其傷痍疾病ノ等差ヲ判定シ査覈證書ヲ作ラシメタル上書類ヲ軍

醫長ニ移シ之ヲ審査セシムヘシ

第四條 軍人恩給法第十一條ニ當ル者ハ其期限内ニ於テ居住地方ノ師團長若クハ屯田兵司令官ニ検査ヲ請求スルコトヲ得

師團長若クハ屯田兵司令官其請求ヲ受ケタルトキハ醫官ヲシテ其症狀ヲ實査セシメ

診斷證書(第五書式)ヲ作ラシム其診斷證書ノ審査ニ係ル取扱ハ第三條ノ例ニ同シ

第五條 休職者停職者ノ恩給請求書ハ直ニ所管師團長若クハ屯田兵司令官兵籍ヲ寄留ル者ハ其寄留地ノ師團長ニ呈スヘシ地ニ移シタル師團長ニ呈スヘシ參謀長屯田兵司令官ハ參謀ニ下シテ調査セシメ計算書(第九書式)ヲ作り之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 賑恤金ノ請求ハ第三書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長ハ順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ第三條ノ例ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第七條 給助金ノ請求ハ第四書式ニ示シタル書類ヲ具備シ本人若クハ遺族ヨリ舊所管長官ニ呈スヘシ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第八條 恩給ヲ受クル權利ヲ有スル士官候補生ノ内見習士官ハ曹長ニ一等軍曹二等軍曹ノ各階級ニ進ミタル者ハ其階級ニ其他ノ生徒ハ總テ兵卒ニ準ス

第九條 服役年ヲ算スルニ當リ初任ノ月ニ端日數ヲ生シタルトキハ其月ノ大小ニ依リ積算スルヲ法トス故ニ現役ヲ離レタル月ノ端日數ト合セテ三十日以上ニ及ヒタルトキハ其初任ノ月ノ大小ニ從ヒ一箇月ノ區域ヲ定ム

第十條 軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ所管長官ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ヘ下附スルトキハ兵籍ノ寫ヲ添ユヘシ戸籍ニ關スル但給助金ノミヲ受クヘキ遺族ニ在テモ亦同シ

前項ノ履歷書(第八書式)及兵籍寫ニハ所管長官其事實ヲ證明スヘシ但兵籍寫ノ證明書式ハ第八書式末文ニ依ル

第十一條 恩給、賑恤金給助金ノ請求書及ヒ履歷書ハ各二通ヲ差出スヘシ
第一書式 (用紙美濃紙)

恩給請求書

何年何月何日何兵ニテ入營(何々被申付)何年何月何日被任何官爾來何箇年服役何年何月何日豫備(後備)(退役)(服役滿期)(傷痍)(疾病)ノ故ヲ以テ退役(免官)(免役)ニ相成候就テハ軍人恩給法第何條ニ依リ恩給下賜度證據書類相添請求仕候也

陸軍軍人恩給取扱手續

元第何師團何兵第何聯隊第何中隊(官廨)
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

年月日

官氏名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

傷疾疾病ニ係ルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ノ地方醫師診斷證書
現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第二書式 (用紙美濃紙)

(傷疾疾病重症ニ趨キ恩給ノ増加ヲ請
求若クハ其恩給ヲ更ニ請求スルトキ)

恩給請求書

何年何月何日ヨリ傷疾(疾病)ノ故ヲ以テ恩給及負傷増加恩給下賜候(現役ヲ離レ候)

處爾來何々ニ據リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷證書ノ通ニ候間御検査ノ上軍人恩給法第
何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官氏名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア
リテハ醫師二名連署シタルモノ

更ニ恩給ヲ請求スルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア
リテハ醫師二名連署シタルモノ

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第三書式(用紙美濃紙)

賑恤金請求書

何年何月何日何地ニ於テ何々ノ爲メ傷疾ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)爾來加療ノ末服役ニ堪

陸軍軍人恩給取扱手續

ヘサルヲ以テ何月何日免官(免役)相成候就テハ軍人恩給法第何條ニ據リ相當ノ賑恤
金下賜度證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

元官氏

名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ニ同シキ地方醫師ノ診斷證書

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第四書式(用紙美濃紙)

給助金請求書

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤績本年何月何日現役ヲ離レ候ニ付軍人恩給法第
何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官氏

名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

(遺族ヨリ出願ノトキ)

給助金請求書

第何師團何兵第何聯隊第何中隊(官廨)

故官氏

名

右何年何月何日死去仕候ニ付軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添請
求仕候也

故官氏名寡婦(孤兒)(遺族)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

氏名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

陸軍軍人恩給取扱手續

履歷書(第八書式)

第五書式(用紙美濃十三行野紙)

(「内ハ朱書)

診斷證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際右大腿前下部ヨリ膝關ニ貫通スル骨傷銃創ヲ受テ(何病ニ罹リ)直ニ繃帶所(某野戰病院)ニ於テ一時ノ處置ヲ施シ爾後何々病院ヲ經テ何月何日某術成病院(某豫備病院)ニ入院(軍人恩給法第十一條ニ當ルモノハ爾來加療ノ末創面治療スルニ由リ何年何月現役ヲ離レタル後何月何日來該傷疾ノ爲メ何々症ヲ發シ)當時ノ症狀何々(何々症ヲ繼(併)發ス)依テ何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經過何々ニシテ現今創面(何々)ハ治療スト雖モ右膝關節何度ノ角ニ於ケル強剛ヲ遺シ且患肢ハ健肢ヨリモ瘦削スルコト何々ノ部ニ於テ周測スルニ何仙迭迷篤爾ニシテ該肢ノ用ヲ妨ケルニ由リ軍人給恩法第九條第何項症(賑恤金ニ係ルモノハ軍人恩給法第十四條第何項即陸軍軍人傷疾疾病恩給等差例第二條

第何款ノ甲(乙)症)ト診斷候也

主任

年月日

職 官 氏 名 印

再診

何病院長 官 氏 名 印

「審査」

「第何師團軍醫長 官 氏 名 印」

「右覆數候處適當ノ診斷ト認定候也」

「陸軍省醫務局長 氏 名 印」

備考 傷疾疾病ノ原因、症候(傷疾ノ種類、部位、淺深等、疾病ノ輕重、併發症、繼發症等)經過、療法及ヒ現時官能障礙ノ景況ヲ詳記スヘシ
 本證書ハ退役又ハ服役免除ノ爲ニ要スル診斷證書ト同時ニ調製スヘキモノトス
 再診ハ本人ニ就テ診斷スルヲ例トス但シ場合ニ依リ病床日誌ノ寫(病床日誌

陸軍軍人恩給取扱手續

ヲ作ラサルトキハ病歷書ニ就テ再診スルコトヲ得
各官衙附憲兵隊附等ノモノニ係ル審査ノ取扱ハ一般ノ手續ニ依ル

第六書式(用紙美濃十三行野紙)

死亡證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際何部ニ何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾後何病院(何々ヲ經テ何月何日來何病院)ニ於テ加療候處(何々症ヲ繼〔併〕發シ)遂ニ何々ニ由リ本日午前(後)何時何分死亡候也

年 月 日

職 官 氏 名 印

備考 入院患者ニアリテハ病院長其他ニアリテハ主任ノ醫官之ヲ調製スルモノトス

第七書式

現認證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日午前(後)何時何地ニ於テ俱ニ進撃ノ際(器械體操何演習何々ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲ニ)何部ニ何傷ヲ受クルヲ現認候也

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

官 氏 名 印

年 月 日

同

官 氏 名 印

備考 本證書ハ勉メテ受傷ノ現況ヲ詳記スヘシ

現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ

第八書式

履歷書 (死者ノ遺族ヘ下付スヘキ履歷書モ之ニ準ス)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)

同 何番地寄留

明治何年何月何日 徵兵ニテ何師團へ入營(任何官)官應ノ名ヲ任官ノ下ニ一々記入スヘシ

同 何年何月何日何々ノ科ニ依リ輕禁錮何日

同 何年何月何日 任何兵二等軍曹

同 何年何月何日 任何兵一等軍曹

同 何年何月何日 某地從軍 (外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレタルトキハ內國港灣出發ノ日)

同 何年何月何日 某地ヨリ歸營 (外國戰ニ當リテハ歸港ノ日)

同 何年何月何日 某地ヨリ歸營 (內國戰ニ當リテハ戰地ニ臨ミタル日)

同 何年何月何日 某地ヨリ歸營 (臨戰合圍地境內ニ於テ服役シタルトキハ其境內ニ於テ役ニ就キタル日)

同 何年何月何日 某地ヨリ歸營 (日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ其鎮戍ニ臨ミタル日)

同 何年何月何日 某地ヨリ歸營 (日本國外ノ鎮戍ニ在リシトキハ其鎮戍ヲ離レタル日)

同 何年何月何日 任何兵曹長

同 何年何月何日 任何兵少尉

同 何年何月何日 任何兵中尉

同 何年何月何日 豫備(後備)(退役)被仰付(免官)(免役)(死亡)

右相違無之依テ證明候也

第九書式

恩給計算書

職官氏名
 職官氏名
 印

年	月	日	事由	服役年	通算
明治何年	何月	何日	任何官	何年何箇月 (一時賜金ニ係ル年月)	
同 何年	何月	何日	任何官		
同 四年	七月	三十日	官祿何石 月体何圓		
同 何年	何月	何日	徵兵		
同 何年	何月	何日	何年何箇月		

陸軍軍人恩給取扱手續

備考 服役年ノ端數ヲ合シテ三十日以上ニ及フトキハ初任ノ月ノ大小ニ依リ一箇月ヲ定ム文官奉仕中ノ年月ヲ武官ノ年月ニ補フトキ一日未滿ノ分數ヲ生スルトキハ之ヲ一日ニ採ル

明治	五月九日	補出仕	三年九箇月二十日內
同	二月二十日	何等	四分ノ三
同	二月二十一日	任少尉	一箇月二十一日
同	十二月三十一日	終服期	三年七箇月十二日
同	十二年	終服期	十年十箇月九日
總計十四年七箇月十二日			

朕國民軍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十八年一月二十五日

陸軍大臣伯爵西鄉從道

勅令第十三號

國民軍條例

- 第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衛戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ
- 第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス
- 第三條 國民軍ノ召集及解散ハ勅令ニ依リ師團長之ヲ行フ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得
- 第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校、同相當官、准士官、下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ掲クル者ヨリ撰拔シテ之ニ充ツ
 - 一 退役ノ陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者
 - 二 元陸軍下士上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

國民軍條例

三 國民兵中材幹技能アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得

第六條 第四條第二第三ニ當ル者ノ任官ハ陸軍武官官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長、同等以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得其ノ勤務ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ其ノ官職ヲ有スル者ニ準ス
前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ准士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ拔擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ準ス

第九條 第四條第二第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ准士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ免ス

陸軍省令第二十五號

國民軍條例第四條ニ依リ國民軍編入志願者ノ願出ニ關スル規程左ノ通定ム

明治二十九年十二月五日

陸軍大臣子爵高島綱之助

一 國民兵役ニ在ラサル退役陸軍將校同相當官准士官及元陸軍下士上等兵看護手ニシテ國民軍編入志願ノ者ハ編入年數ヲ定メテ九月三十日迄ニ願出ツヘシ又數次此願出ヲ爲スコトヲ得

二 退役陸軍將校同相當官准士官ニ在テハ其願書ヲ町村長郡長又ハ市長及本籍地所管聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ師團長ニ願出ツヘシ

三 元陸軍下士上等兵及看護手ニ在テハ町村長郡長又ハ市長ヲ經テ本籍地所管聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ願出ツヘシ

四 前二項ノ願書ニハ住所生年月日及將校同相當官ニ在テハ元職、元下士ニ在テハ元官元職元上等兵看護手ニ在テハ各其等級ヲ記スヘシ

五 第二項又ハ第三項ニ依リ願出ツル者アルトキハ師團長又ハ聯隊區司令官若ハ警備隊司令官ニ於テ所要ノ調査ヲ爲シ適當ト認ムルモノハ編入期日ヲ指定シテ之ヲ許

可シ其名簿ヲ作り當該司令部ニ備フヘシ
六 本令中郡長トアルハ島司町村長トアルハ戸長及之ニ準スヘキ者ヲ包含シ市長トアルハ東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セル地方ノ區ニ在テハ區長ニ該當ス

朕屯田兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百八十一號

屯田兵條例

- 第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置シテ其警備ニ充ツ
- 第二條 屯田兵ハ兵農相兼スルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕作ニ従事セシム
- 第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム
- 第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役八箇年後備役十二箇年トス
後備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ及簡閱點呼ヲ爲ス
- 服役期限中滿四十歳ニ至リ又ハ死亡若ハ事故ニ依リ免役シタルトキハ其家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシム若シ適當ノ男子ナキトキハ兵役ヲ免ス

屯田兵ニシテ召集ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサル者ハ兵役ヲ免ス

第五條 後備役滿期後十箇年補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス

第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアルヘシ

附則

第八條 明治二十七年以前ニ召集シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

- 一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召集シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム
- 一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召集シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召集ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
- 一 明治二十一年ニ召集シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召集ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
- 一 明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召集シタル者及明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召集シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシム

十七年以前ニ召集シタル騎兵、砲兵、工兵ハ三箇年間現役ニ四箇年間豫備役ニ十三箇年間後備役ニ服セシム

- 一 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召集シタル歩兵ハ七箇年間現役ニ十三箇年間後備役ニ服セシム

第九條 前條ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル

明治二十二年及明治二十三年ニ於テ召集シタル者ノ現役年期ハ屯田兵編入ノ當日ヨリ起算シ豫備役後備役年期ハ前役滿期ノ翌日ヨリ起算ス

第十條 豫備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其ノ他特ニ公務ニ服セシムル爲メ召集ス

陸軍省令第二十一號

屯田兵召募規則左ノ通改正ス

明治三十年八月九日

陸軍大臣子爵高島勲之助

屯田兵召募規則

第一條 屯田兵ハ志願者中召募検査ニ合格シタル者ヨリ所要ノ人員ヲ採用シ毎年四月

ニ於テ移住セシム

第二條 屯田兵召募ノ區域及其人員ハ移住スヘキ前年之ヲ告示ス

第三條 屯田兵ニ採用スヘキモノハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス

一 年齢満十七歳以上満二十五歳以下 移住年ノ四月一日ヲ以テ算ス以下同シ

但陸軍各兵科豫備後備補充兵在役ノ下士上等兵ハ満三十歳以下ノ者

二 身長五尺以上ノ者

但年齢二十歳未満ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上ノ者

三 身體強壯ニシテ兵農ノ動作ニ堪エル者

四 (削除)

屯田兵召募規則

- 五 同戸籍内ニ年齢満十五歳以上満六十歳以下ニシテ身體強壯且北海道ニ移住シ志願者ヲ助ケ農業ニ従事スルノ志操確實ナル者二人以上ヲ有スル者
- 第四條 第三條ノ資格ヲ具フル者ト雖モ左ノ事項ノ一ニ該者ハ採用キス
 - 一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵
 - 二 本人又ハ其戸主身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者並ニ其ノ處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者
 - 三 素行修マラサル者
 - 四 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
 - 五 養子ニシテ入籍後第五條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者
 - 六 召募區域内ニ本籍ヲ定メ第五條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者
- 第五條 屯田兵志願者ハ第二條ノ告示ニ依リ八月三十一日迄ニ第二書式ノ願書第二書式ノ明細證明書各二通ヲ作り市町村長東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下同シニ差出スヘシ
- 第六條 市町村長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ第二書式ニ照シテ事實ヲ調査シ之カ

- 證明ヲ爲シ聯隊區司令官警備隊司令官ヲニ差出シ町村長ハ島司郡長ヲ經テニ送付スヘシ
- 第七條 聯隊區司令官ハ検査場ヲ定メ検査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ之ヲ町村長ニ達スヘシ
- 市町村長ハ検査當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者及第二條第五ニ該當スル者ヲ引繼メ検査場ニ出頭シ召募検査ヲ受ケシムヘシ
- 前項受檢者ノ検査場往復ニ關スル費用ハ自辨トス
- 第八條 召募検査ハ其召募區域内ニ於ケル聯隊區司令官之ヲ行フ
- 第九條 聯隊區司令官召募検査ヲ終レハ第四書式ノ検査成績連名簿ヲ作り軍醫ノ體格検査表ト共ニ十一月三十日迄ニ到達スル如ク第七師團長ニ送付スヘシ
- 第十條 第七師團長ハ検査成績連名簿及其他ノ書類ニ就キ審査ヲ爲シ採用スヘキ者ノ戸籍内ニ於テ扶助ヲ受クヘキ人員採用者共ニ五人迄豫備員及集合地集合期日ヲ定メ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ島司郡市長並ニ町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ告達スヘシ

第十一條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ同戶籍内ノ者十五歳以上ノ者ト共ニ第五書

式ノ誓文ヲ作り市町村長並ニ島司郡長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文ハ聯隊區司令官之ヲ取纏メ第七師團長ニ送付スヘシ

第十二條 屯田兵ニ採用スヘキ者ハ支度料旅費日當及運搬料ハ第七師團司令部ヨリ聯

隊區司令部ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十三條 屯田兵志願者ニシテ出願後第四條ノ事項ニ該當シ若クハ屯田兵志願者及其

戶籍内ノ者失踪死亡犯罪其他第二書式ノ明細證明書ニ異動ヲ生シタルトキハ戶主ヨ

リ速ニ市町村長並ニ島司郡長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ但其事故戶主ニ係

ルモノハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ本文ノ例ニ依リ届出ヘシ

第十四條 屯田兵志願者及第三條第五ニ該ル者ニシテ召募検査後傷痍若クハ疾病ニ依

リ癈疾不具トナサズルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戶主ヨリ速ニ市町村長並ニ島司郡

長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十五條 第十三條第十四條ノ届出ヲ爲ササル者アルトキハ市町村長町村長ハ島司

ヲ連ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ郡長ヲ經テ

第十六條 第十三條第十四條第十五條ノ届出アルトキハ聯隊區司令官ハ直ニ之ヲ第七師團長ニ通知スヘシ

第十七條 第七師團長第十六條ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其事故第三條ノ資

格ヲ缺キ若クハ第四條ノ事故ニ該當スルモノナルトキハ屯田兵採用ノ達ヲ取消シ其

缺員ハ豫備員ヲ以テ補充スルモノトス但採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及

運搬料支給後ニ係ルトキハ聯隊區司令官之ヲ返納セシムヘシ

前項缺員補充ノ手續ハ第十條ノ例ニ依ル

第十八條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者若クハ其戶籍内ノ者ニシテ疾病其他正當ノ

事故ニ依リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ豫定シ疾病ニ罹ル者ハ醫師

ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ聯隊區司

令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出テ許可ヲ受クヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ聯隊區司令

官ニ届出テ支度料旅費日當及運搬料ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

聯隊區司令官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ之ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十九條 屯田兵移住ニ際シ聯隊區司令官ハ副官若クハ書記ヲシテ集合地ニ派遣シ屯

田兵受領委員ニ引渡サシメ且其宿泊乗車乗船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ
第二十條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以内トシ一箇ノ重量ハ九貫目以内トス但左ニ
掲クル物件ハ携帯スルヲ許サス

- 一 容積長サ三尺幅二尺高サ二尺以上ノモノ
- 二 梱包堅固ナラサルモノ又ハ其標識所定ノ式ニ違フモノ
- 三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類
- 四 鹽若クハ白ノ類
- 五 危險物
- 六 以上掲クルモノノ外取扱ニ困難ナルモノ

附則

第二十一條 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ
於テ之ヲ行フヘシ

第一書式 用紙美濃白紙

屯田兵服役願

某儀

屯田兵志願ニ付御検査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道へ移住シ共ニ規則
嚴重ニ相守可申依テ別紙明細證明書相添此段奉願候也

年號月日

族籍(戸主ニアラサルモノハ某子弟等)
産地
住所

姓 名 印

年月日生
何年何箇月

第七師團長何某殿

右之通願出ニ付取調候處相違無之候也

何府(縣)何市(郡)町(村)長 姓 名 印

一 志願者戸主ニアラサルトキハ戸主連署スヘシ

第二書式甲

志願者明細證明書

志願者 姓 名

履 歷	財產	身 元	證 明
一何年月日ヨリ何業 ニ従事何年間繼續建	志願者戸主ニアラサルト キハ當時ノ戸主ノ財產	一身代限ノ處分又ハ家資分 散若クハ破産ノ宣告ヲ受	
物 家屋	何棟		
土藏			

屯田兵召募規則

族中適當ノ男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシムヘキ事
 二 戶主ハ家族ヲ訓戒誘導シ一家舉テ兵役者ヲ輔ケ一家ノ業務ニ從事シ特ニ兵役者出務ノ間ハ戶主若クハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ兵役者ヲシテ内顧ノ憂ナカラシムル様可仕事
 三 兵役者ハ勿論其他ノ者ト雖許可ヲ得スシテ兵村以外ニ寄寓シ若クハ他ノ業務ニ從事スル等ノコト仕間敷事
 四 師團長及隊長ノ御達並御訓示等ハ一家舉テ嚴重ニ遵守シ決シテ違背仕間敷事
 年 月 日

附表

屯田兵採用者集合見込地名表

師管番	聯隊區	甲	乙	丙	丁
		集合見込地			
近衛	本郷橫濱				
	宇都宮宇都宮古河橫濱				
佐倉千葉古河橫濱					
第一	水戸水戸宇都宮古河橫濱				
	麻布橫濱				
	高崎高崎古河橫濱				

本人 何
 父 何
 母 何
 兄(弟)(妻) 何

某 某 某 某
 印 印 印 印
 ○印ハ警備隊區

第八	長野長野高崎直江津橫濱	小笠原島橫濱下田	仙臺仙臺萩濱	福島福島白河萩濱	新發田新潟潟直江津	柏崎新潟潟直江津	佐渡新潟潟直江津	弘前青森弘前鱒ヶ澤	盛岡盛岡宮古氣仙沼	秋田船川土崎酒田	山形山形酒田米澤	名古屋四日市鳥羽武豐名古屋
	津	豐橋	靜岡	金澤	富山	鯖江	岐阜	大坂	和歌山	大津	京都	福知山
第九	四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	木七尾敦賀	木七尾直江津	賀四日市	賀四日市鳥羽	阪神	邊神	津草	郡山	福知山
	四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	木七尾敦賀	木七尾直江津	賀四日市	賀四日市鳥羽	阪神	邊神	津草	郡山	福知山
第三	津	豐橋	靜岡	金澤	富山	鯖江	岐阜	大坂	和歌山	大津	京都	福知山
	四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	木七尾敦賀	木七尾直江津	賀四日市	賀四日市鳥羽	阪神	邊神	津草	郡山	福知山
第四	津	豐橋	靜岡	金澤	富山	鯖江	岐阜	大坂	和歌山	大津	京都	福知山
	四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	尻四日市鳥羽武豐	木七尾敦賀	木七尾直江津	賀四日市	賀四日市鳥羽	阪神	邊神	津草	郡山	福知山

屯田兵召募規則

公有財産ノ管理用并ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若クハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ沒收ス

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件併セテ之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若シ期限迄ニ取除カサルトキハ競賣ニ附シ其ノ費用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス

第七條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス

其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵又屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十三年マテニ召募シタルモノニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

第九條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ土地ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

第十條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ間家族ヲシテ其ノ土地ヲ保管セシム

第十二條 此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

朕屯田兵移住給與規則ノ正改ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十七年七月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第九十六號

屯田兵移住給與規則

第一條 屯田兵及其ノ家族移住ノ際ハ支度料、旅費日當、運搬料トシテ左ノ金額ヲ給與ス但旅費日當ノ給與ハ一戸ニ付五人迄トス

一 支度料 一戸ニ付五圓

二 旅費日當 一人一日ニ付三十錢 七歳未満ハ半額

三 運搬料 一戸一日ニ付二圓六十錢

第二條 旅費日當及運搬料ハ一日行程ヲ十里詰トシ給與ス

一里以上六里未満ハ半額、六里以上ハ全額ヲ給與ス但一海里ハ陸路十六町九分七厘五毛ニ改算ス

第三條 集合地ヨリ移住地迄ノ旅行ニ關スル費用ハ一戸ニ付五人迄官ニ於テ仕拂フモ

屯田兵移住與給規則

ノトス

第四條 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ居残り若クハ途中ニ於テ滞在シ他日移住地ニ至ル者ノ旅費日當及運搬料ハ移住地迄順路ニ依リ給與ス

疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ途中ニ於テ滞在シタルトキハ一人一日ニ付三十錢七歲未滿ハ半額ノ日當ヲ給與シ其ノ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ醫師又ハ病院ニ於テ治療ヲ受ケタル者ハ診斷書、治療費及入院料入院料ヲ給與スルトキハ日當ヲ給與セスハ實費ヲ給與ス但傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書、其ノ他ノ事故ニ由リタル者ハ憲兵、警察官若クハ市町村吏員ノ證明書ヲ差出スヘシ

第五條 屯田兵移住シタルトキハ兵屋、井戸屬具、家具、夜具、農具、種物、扶助米及鹽菜料ヲ給與ス但井戸及屬具ハ實際ノ景況ニ由リ二戸以上ニ二箇ヲ給與スルコトヲ得移住後滿三箇年間ニ於テ變災ノ爲メ前項ノ兵屋、家具夜具及農具ヲ亡失若クハ破損シ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ更ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第六條 家具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス
一 鍋 大小 各一個

各一個

- 二 茶碗 五箇
- 三 手桶 一荷
- 四 小桶 一組
- 五 擔桶 一荷
- 六 柄杓 一箇
- 七 燈具 一箇
- 八 鐵瓶 一箇

第七條 夜具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 一 四布 三枚
- 二 三布 二枚

第八條 農具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但農業ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

- 一 鍬 大小 各一挺
- 二 唐鍬 大二挺 小一挺

屯田兵移住給與規則

甲額ハ十五歳以上六十歳未満ノ者ニ、乙額ハ七歳以上十五歳未満及六十歳以上ノ者ニ、丙額ハ七歳未満ノ者ニ給與ス

扶助米及鹽菜料ハ毎月一日ノ現員ニ應シ前渡ヲ爲スコトヲ得

第十一條 移住地に著後五日以内ハ扶助米及鹽菜料ニ換ヘ一人一日ニ付卅錢七歳未満ハ半額以内ノ現賄ヲ給與シ又時宜ニ由リ到着後三十日以内ハ玄米ヲ二割減ノ割合ヲ以テ精米ニ換ヘ給與スルコトヲ得

第十二條 扶助米及鹽菜料ノ給與方左ノ如シ

一 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ期日ニ後レ移住スル者ハ到着ノ翌日ヨリ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

二 附籍者ニシテ附籍主ト共ニ移住スル者ハ鰥寡孤獨ニシテ自營シ能ハス親戚ノ縁故ニ依リ附籍ノ者ニ限リ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

三 移住後滿三箇年以内ニ於テ婚姻、縁組及出產ノ爲メ入籍スル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

四 家族中恩給、扶助料其他官給ヲ受クル者ハ其ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

五 屯田兵給與令ニ依リ糧食及食料ヲ受クルトキ並ニ軍隊旅行演習旅行其ノ他旅費ヲ受クルトキハ日割ヲ以テ扶助米及鹽菜料ヲ控除ス

六 屯田兵條例第四條第四項ニ依リ兵役ヲ免セラレタルトキハ扶助米及鹽菜料ノ給與ヲ止ム

七 第一第三ニ該ル者ハ其ノ戸主扶助滿限ノ日ヲ以テ扶助ノ終期トス

八 逃亡失踪其ノ他縱ニ兵村ヲ離ルル者ハ其ノ不在ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

九 正當ノ手續ヲ爲シタル者ト雖モ三十一日以上兵村ヲ離ルルトキハ其ノ兵村ヲ離ルル間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

第十三條 屯田兵現役中ニ於テ各兵村一中隊ノ兵村ヲ云フ以下同シニ事業場四棟ヲ給與ス實際ノ景況ニ由リ四棟ノ建坪ヲ合セテ一棟若クハ二三棟トナシ又ハ不用ニ屬シタル官有建物ヲ改修シテ給與スルコトヲ得

事業資金トシテ各兵村ニ一時限リ六百圓ヲ給與シ事業上必要ノ器具費其ノ他ノ費用ニ充テシム

第十四條 屯田兵移住シタルトキハ各兵村ニ學校一棟及所要ノ器具ヲ給與シ且其ノ維持費トシテ一時限リ二百圓ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ一兵村ノ學校ヲ二棟ニ分チ若クハ二兵村ノ學校ヲ合セテ一棟トナ
スコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ器具及維持費ハ之ヲ二分シ若クハ二兵村ヲ併セテ
之ヲ給與スルモノトス

第十五條 兵村ニ給與シタル事業場、學校及之ニ屬スル器具若クハ事業場學校ノ爲メ
ニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ第七師團長之ヲ定ム

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ
屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徵收
シテ之ヲ付與スルコトヲ得

第十七條 屯田兵及其ノ家族移住途中ニ於テ死亡スルトキハ實費ヲ以テ埋葬ノ費用ヲ
給與シ又其ノ家族ハ屯田兵移住後三箇年間ニ於テ死亡スルトキハ左ノ埋葬料ヲ給與
ス

一 五圓

七歳以上ノ者

二 二圓五十錢

七歳未満ノ者

附則

第十八條 明治二十七年以前ニ召募シタル者ハ第四條第十二條第十六條第十七條ヲ除
クノ外ハ總テ從前ノ規定ニ依ル

陸軍省令第二十一號

今般陸軍軍人休暇規則改正セラレ候ニ付テハ陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱
及手續左ノ各項ニ據ルヘシ

明治二十三年七月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱及出願手續

一 陸軍下士兵卒ノ父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ歸郷ヲ要スルトキハ往復ヲ除キ

二週間以内ノ休暇ヲ許ス其休暇ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作り病氣ナレハ醫
師ノ診斷書ヲ

添特別市制施行地
ハ市長村長
ハ區長以下同シノ與書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙へ宛差出ス

ヘシ但掌務繁劇ナルトキハ許可セサルコトアルヘシ

一 前項ノ外下士ニ在テハ毎年二週日以内ノ休暇ヲ與へ歸郷又ハ旅行ヲ許スコトアリ

又營外居住ノ下士兵卒ニハ轉地療養ヲ要スルトキ本人ノ願ニ依リ四週日以内ノ休

暇ヲ許スコトアルヘシ

一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行中發病ノ爲メ出發シ難キトキハ延期ヲ願フコトヲ得其延
期ヲ願フトキハ本人又ハ親族ニ於テ願書ヲ作り醫師ノ診斷書ヲ添へ市町村長ノ與

陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱手續

- 一 書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙へ宛差出スヘシ
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行ノ者如何ナル事故ニ遭遇スルモ前項ノ場合ヲ除ク外休暇日數ヲ延ハスコトヲ許サス
- 一 途中發病屢留船待雪支等ニテ休暇日數ヲ超過スルトキハ醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ證明書ヲ請ヒ歸著ノ上差出スモノトス
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行スル者ハ左式ノ休暇免許證ヲ携持シ陸軍定制ノ服ヲ着ス

六 附 則

兵種隊號(所管)	姓 名
官(兵卒職工)	姓 名
軍隊(所管)印	
職 官	姓 名

裏

一 此證書ハ表記ノ者ニ休暇ヲ與フルノ證トス

一 休暇日數何日(往復日數何日)

一 何月何日何時何地出發何地ニ至リ何月何日何時マテ必ス何地ニ歸著スヘシ

年 月 日

- 一 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區長又ハ戸長ニ於テ取扱フヘシ

陸軍省訓令甲第四號

師團司令部

北海道廳府縣沖繩縣ヲ除ク

明治二十六年陸軍省訓令甲第六號ヲ廢シ更ニ現役砲兵輸卒及現役輜重輸卒ニシテ疾病犯罪等ノ爲メ入營シ難キ者ノ取扱左ノ通定ム

明治三十年四月一日

陸軍大臣子爵高島勲之助

- 一 疾病犯罪ノ爲メ入營シ難キ者ハ漸次次期ニ繰下ケ入營セシメ其終期ニ於テ入營シ難キ者ハ次年徵集ノ現役兵同時ニ入營セシム
- 二 其事故繼續シ若クハ再發シ次年第二期仙臺弘前札幌金澤ノ各衛戍地ニ在テハ第一期以後ニ至ルモ仍ホ入營シ難キ者アルトキハ徵兵検査ノ際身體検査ヲ爲シ徵集ニ適スル者ハ前項ノ例ニ依リ取扱ヒ其徵集ニ適セサル者ハ徵集免除若クハ兵役免除ノ處分ヲ爲ス
- 三 入營ヲ次年ニ繰下ケタル爲メ所要人員超過スルトキハ抽籤番號ノ最モ高キ者ヨリ漸次次期ニ繰下ケ終期ニ於テ仍ホ要員ニ超過スルトキハ次年ニ繰下ケヘシ

陸軍省令第二十六號

陸軍豫備役後備役ニ在ル者及補充兵ニシテ海員タル者届出ノ件左ノ通定ム

明治三十年十月二十三日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

第一條 陸軍豫備役後備役ニ在ル者及第一第二補充兵ニシテ左ニ掲クル者ハ其ノ雇入ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ雇入ヲ公認シタル市町村長又ハ浦役人又ハ領事ノ證明ヲ受ケ其ノ旨ヲ本籍聯隊區司令官又ハ警備隊司令官町村ニ在テハ島ニ届出ヘシ其ノ解雇セラレタルトキ亦同シ但區長戸長以外ノ者ニ浦役人ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ區長戸長ヲ經由スヘシ

領事又ハ本籍地以外ノ市町村長若クハ浦役人ノ證明ニ係ル者ノ届書ハ本籍島司、郡長及市町村長ヲ經由スヘシ

- 一 海技免狀ヲ有シ西洋形船舶ニ乗組ノ者
- 二 海員試験規程ニ於テ遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ヲ卒業シ登簿噸數百噸以上若クハ積石數千石以上ノ船舶ニ乗組ノ者
- 三 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ水夫長、舵夫、火夫長、油差

陸軍豫備役後備役及補充兵ニシテ海員タル者届出方

第二條 陸軍後備役ニ在ル者及第二補充兵ニシテ登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ賄方、水夫、火夫ニ付テモ亦前條ニ依ル

第三條 正當ノ事由ナク第一條第二條ノ届出ヲ怠リタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 第一條ノ市町村長ハ東京市、京都市、大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長、戸長及之ニ準スヘキ者トス

第五條 本令施行以前ヨリ第一條及第二條ノ業ニ従事シ在ル者ハ明治三十年十一月二十日迄ニ第一條ノ例ニ依リ届出ヘシ但外國渡航中ノ者ハ歸朝後領事ノ證明ヲ受クヘキ者ハ證明書受領後二十一日以内ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ怠ル者ニハ第三條ヲ適用ス

陸軍省訓令甲第一號

北海道廳 府縣

陸軍豫備役後備役補充兵役ニ在ル者ニシテ召集事務ヲ管掌スル官吏及公使、廳府縣官吏、島司郡長、島長及之ニ準スヘキ者ト爲リ戰時餘人ヲ以テ代フ可ラサル者ハ其ノ官名若クハ職名兵役ノ種類武官名兵卒ハ兵種等級氏名及本籍住所ヲ在職廳府縣ニ於テ取調毎年十一月十五日迄ニ本籍地所管ノ師團長ニ通報シ爾後翌年ノ通報期迄ニ新任轉免等ノ異動アルトキハ其都度通報スヘシ

明治三十年陸軍省訓令甲第七號ハ自今消滅ス

陸軍大臣子爵高島綱之助

明治三十三年五月十八日

陸軍豫備役補充役ニ在ル者ニシテ召集事務管掌スル官吏調査方 510

陸軍省令第八號

陸軍歸休兵豫備役兵後備役兵第一補充兵ノ演習召集ヲ爲スヘキ年次區分左表ノ通定ム

明治三十年四月二日

陸軍大臣子爵高島鞞之助

演習召集年次區分表

兵種	區分	歸休兵		
		豫備役兵	後備役兵	第一補充兵
步兵	警備隊兵ノミ	各年次	各年次	各年次
騎兵	警備隊兵ノミ	各年次	各年次	各年次
砲兵	警備隊兵ノミ	各年次	各年次	各年次
工兵	警備隊兵ノミ	各年次	各年次	各年次
輜重兵	警備隊兵ノミ	各年次	各年次	各年次
砲兵助卒	現兵最終ノ四箇月間ニ於テ	各年次	各年次	各年次
砲兵輸卒		各年次	各年次	各年次

陸軍歸休兵豫備役兵後備役兵第一補充兵ノ演習召集年次區分表 52-1

輻重輸卒	第三年	第三年	第三年
縫工			第三年
靴工			第三年
看護手	在役中一回	在役中一回	

備
 一 擔架術卒業ノ者ハ本表ノ外演習上ノ必要ニ應シテ第一年第三年ノ者ヲ召集スルコトアルヘシ
 二 豫備役後備役兵卒及看護手ニシテ下士適任證書ヲ所持スル者ハ年次ニ拘ハラズ下士ノ勤務演習ニ召集スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其年ニ於ケル兵卒ノ勤務演習ニ召集セス
 三 砲兵輸卒輻重輸卒ハ機動演習ノ際要員ヲ充足スルノ外本表ノ勤務演習ニ召集セス

附則

一 歸休砲兵助卒後備役歩兵砲兵歩兵砲兵ノ擔架術卒業ノ者ヲ除ク工兵輻重兵一二等卒砲兵助卒騎兵

- 豫備役兵後備役兵第一補充兵縫工靴工第一補充兵後備役看護手ノ演習召集ハ當分之ヲ行ハス但前表備考第二ニ該ル者ハ此限ニアラス
- 二 明治二十九年ニ於テ野戰砲兵及電信通信術卒業證書ヲ所持スル工兵ニシテ豫備役第三年ノ勤務演習召集ニ應シタル者ハ豫備役第四年ニ召集セスシテ前項ニ拘ハラズ後備役第二年ニ於テ召集ス
 - 三 明治三十年ニ限リ第二第五及第六師管ニ於テ在役第一年第三年ノ歩兵工兵輻重兵並第一年第二年ノ騎兵ヲ召集スルコトアルヘシ
 - 四 明治二十三年陸軍省令第二號同第二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

陸軍歸休兵豫備役兵後備役兵第一補充兵ノ演習召集年次區分表 52三終